

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2025年10月から12月
2. 調査対象：小樽市内の企業260社
3. 内訳：製造業55、卸売業27、小売業42、運輸・倉庫業20、観光業44
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：142社（54.6%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディファージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概況

- 売上DIはプラス水準であったが採算DIは3期連続、業況DIは2期連続のマイナス水準に -

前年同期（2024年10月～12月）と比べた今期（2025年10月～12月）の状況

今期と比べた来期（2026年1月～3月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは▲6.2で、前年同期比で23.4ポイント低下しました。主要3項目のうち、売上DIは15期連続のプラス水準で推移しましたが、業況DIは2期連続、採算DIは3期連続のマイナス水準で推移しました。来期は、業況DI、売上DI、採算DIの主要3項目全ての低下とマイナス水準が予想されています。

製造業では、売上DIが前年同期比16.8ポイント低下の▲7.1、採算DIは同9.7ポイント上昇の0、業況DIは同14.0ポイント低下の▲10.7ポイントとなりました。売上DIと業況DIはどちらもマイナスに転じました。

卸売業では、売上DIが同36.0ポイント低下の▲6.6、採算DIは同36.8ポイント低下の▲13.3、業況DIは同30.2ポイント低下の▲6.7となり、いずれも30ポイント以上の大幅な低下となり、マイナスに転じました。

小売業では、売上DIが同9.7ポイント低下の▲22.2、採算DIは同69.0ポイント低下の▲55.6、業況DIは同70.1ポイント低下の▲38.8となりました。採算DIと業況DIはどちらも約70ポイントの大幅な低下となり、マイナスに転じました。

運輸・倉庫業では、売上DIが同22.2ポイント低下の9.6、採算DIは同20.0ポイント低下の13.4、業況DIは同6.7ポイント上昇の20.0となりました。

観光業では、売上DIが同34.5ポイントの大幅な低下の22.2、採算DIは同14.8ポイント上昇の14.8、業況DIは同23.4ポイント低下の0となりました。外国人客数DIについては72.5から7.4へ65.1ポイントの大幅な低下となりました。

サービス業では、売上DIが同8.3ポイント低下の28.6、採算DIは同15.0ポイント低下の▲9.5となりマイナスに転じました。業況DIは同4.3ポイント上昇の9.5となりました。

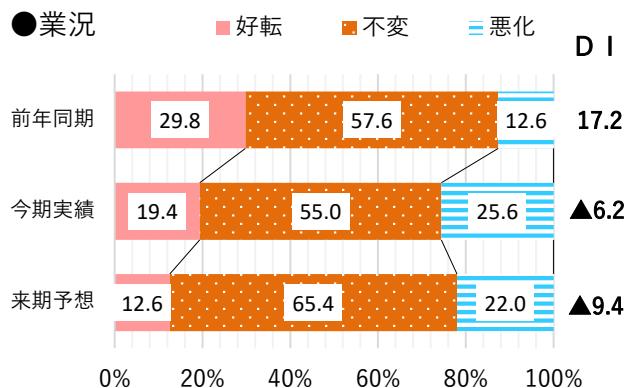
建設業では、売上DIが同38.9ポイントの大幅な低下の▲5.6、採算DIは同27.8ポイント低下の▲27.8、業況DIは同36.6ポイントの大幅な低下の▲16.6となり、いずれもマイナスに転じました。

業況、売上、採算

今期（2025.10～12）の業況判断DIは▲6.2で、前年同期（2024.10～12）と比べ23.4ポイント低下しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ3.2ポイント低下すると予想しています。

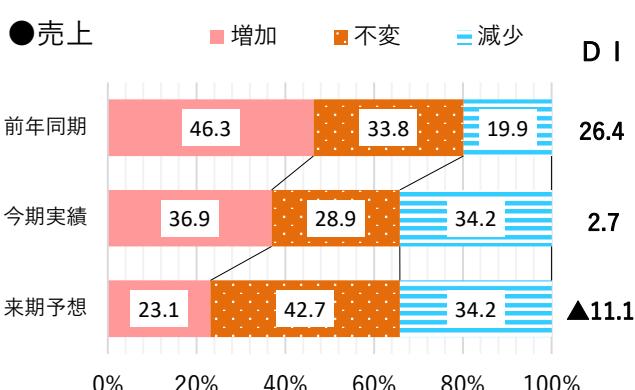
●業況



今期の売上DIは2.7で、前年同期と比べ23.7ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ13.8ポイント低下すると予想しています。

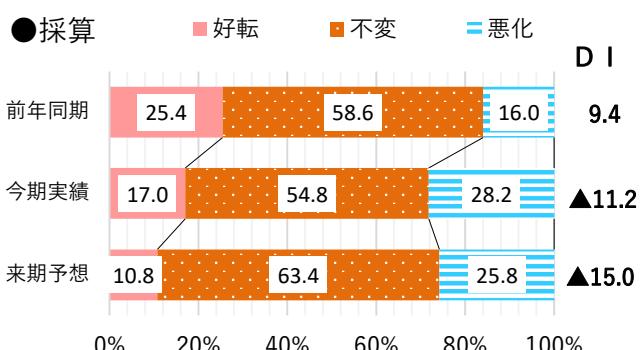
●売上



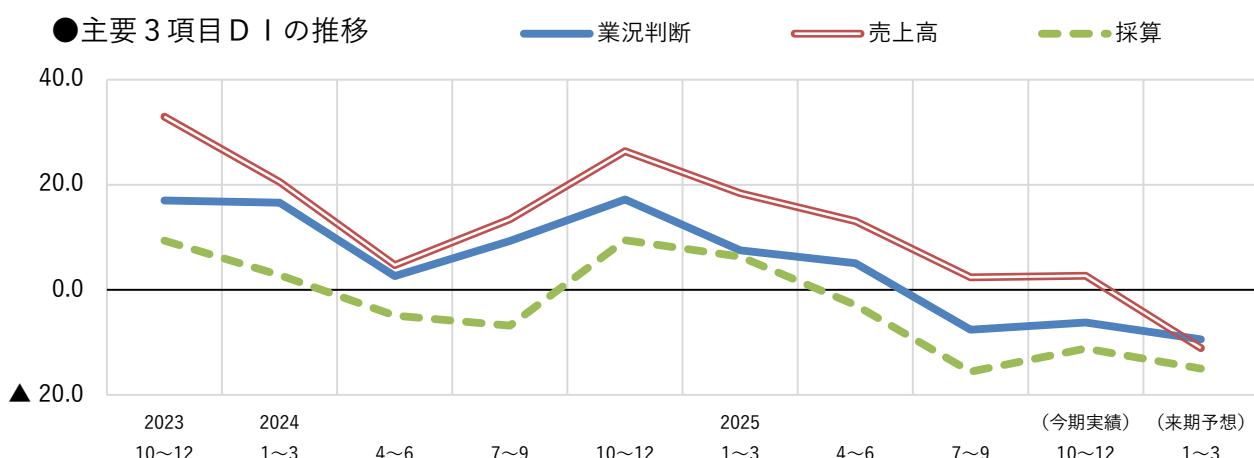
今期の採算DIは▲11.2で、前年同期と比べ20.6ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ3.8ポイント低下すると予想しています。

●採算



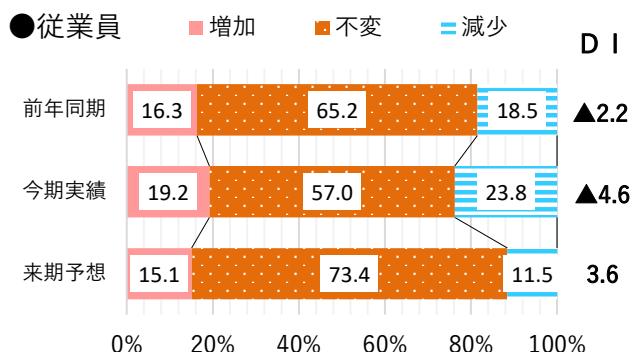
●主要3項目DIの推移



従業員、今期の雇用状況

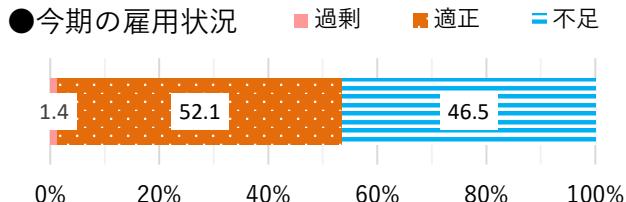
今期の従業員DIは▲4.6で、前年同期と比べ2.4ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ8.2ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.4%、適正であると回答した企業の割合は52.1%、不足していると回答した企業の割合は46.5%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、38.7%を占めました。



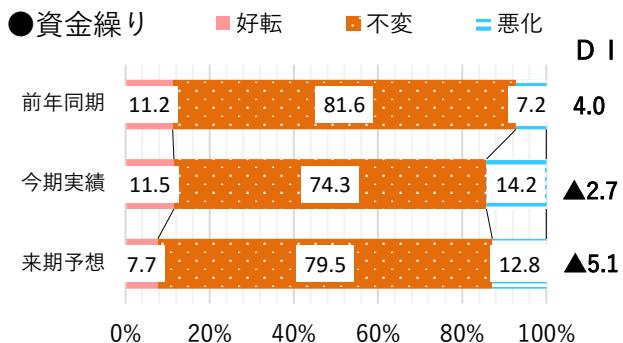
今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0.7%
	適正	10.6%
	不足	7.7%
不変だった	過剰	0.0%
	適正	38.7%
	不足	18.3%
減少した	過剰	0.7%
	適正	2.8%
	不足	20.4%

※回答総数142社

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲2.7で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

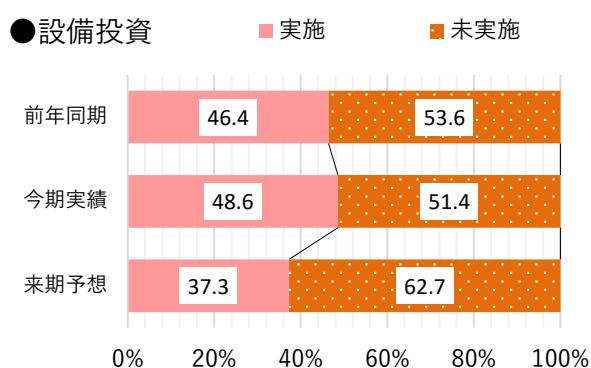
来期の資金繰りDIは今期と比べ2.4ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は、48.6%が実施と回答し、前年同期と比べ2.2%上昇しました。

投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、「OA機器」（同位）、3位が「建物」でした。

来期は37.3%が設備投資を計画していると回答しています。

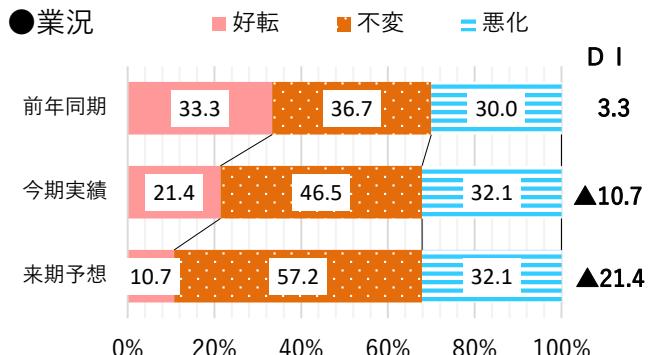


製造業

業況、売上、採算

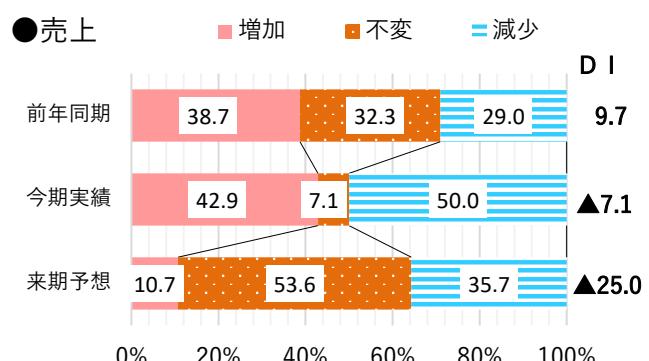
今期（2025.10～12）の業況判断DIは▲10.7で、前年同期（2024.10～12）と比べ14.0ポイント低下しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ10.7ポイント低下すると予想しています。



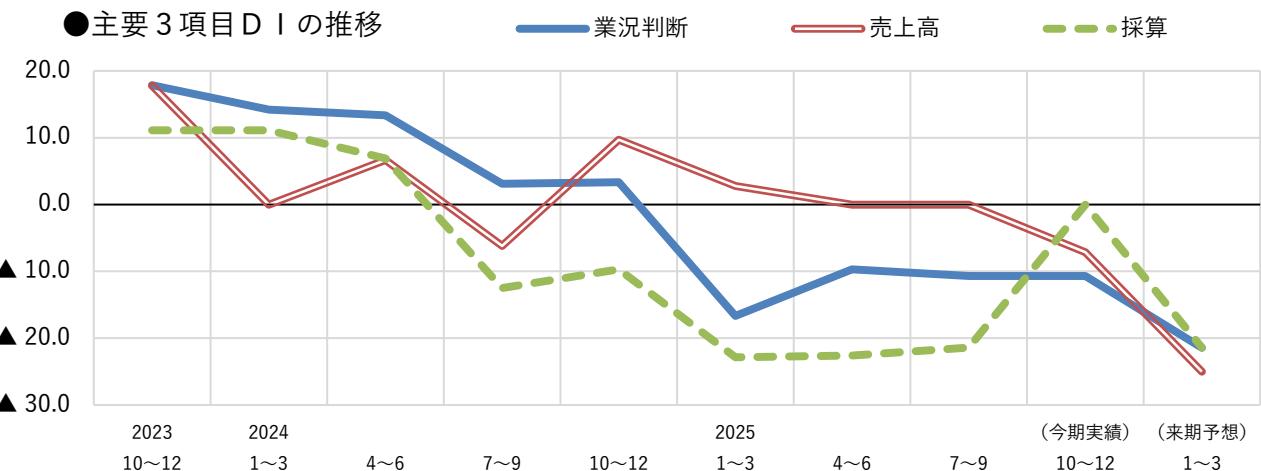
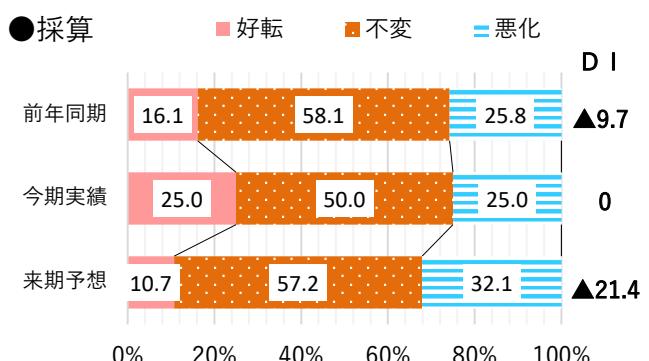
今期の売上DIは▲7.1で、前年同期と比べ16.8ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ17.9ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは0で、前年同期と比べ9.7ポイント上昇しました。

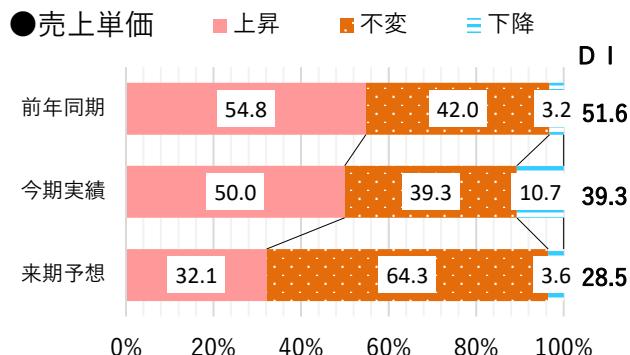
来期の採算DIは今期と比べ21.4ポイント低下すると予想しています。



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

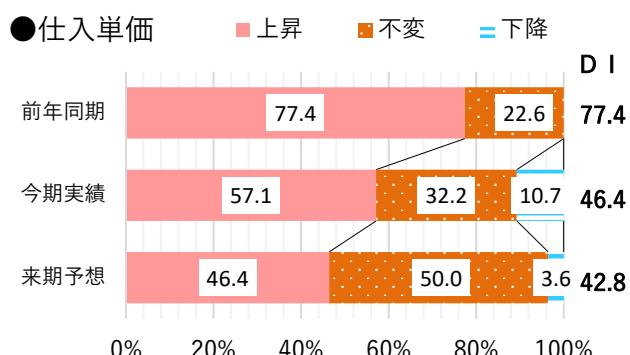
今期の売上単価DIは39.3で、前年同期と比べ12.3ポイント低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ10.8ポイント低下すると予想しています。



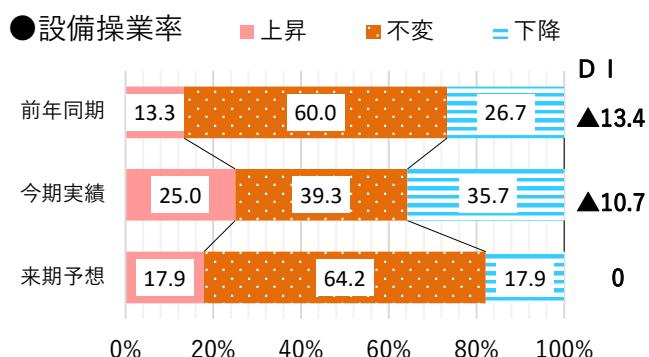
今期の仕入単価DIは46.4で、前年同期と比べ31.0ポイントと大幅に低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ3.6ポイント低下すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲10.7で、前年同期と比べ2.7ポイント上昇しました。

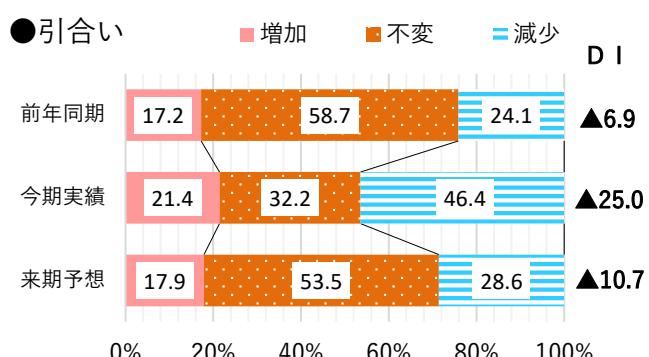
来期の設備操業率DIは今期と比べ10.7ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲25.0で、前年同期と比べ18.1ポイント低下しました。

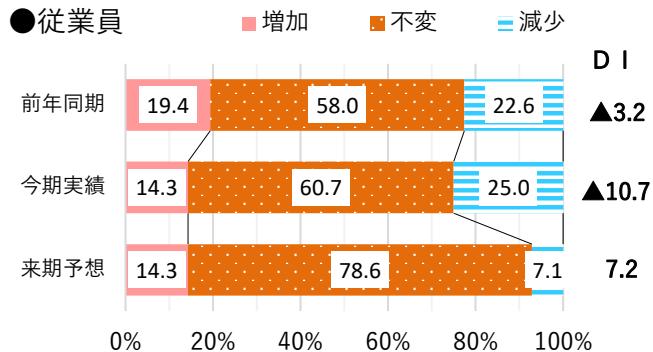
来期の引合いDIは今期と比べ14.3ポイント上昇すると予想しています。



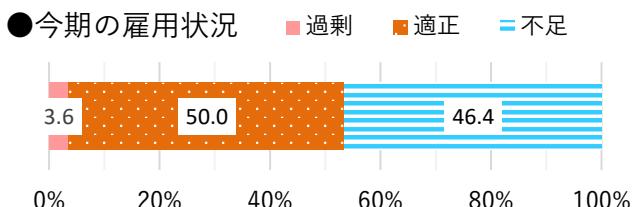
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.7で、前年同期と比べ7.5ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ17.9ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は3.6%、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は46.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、39.3%を占めました。

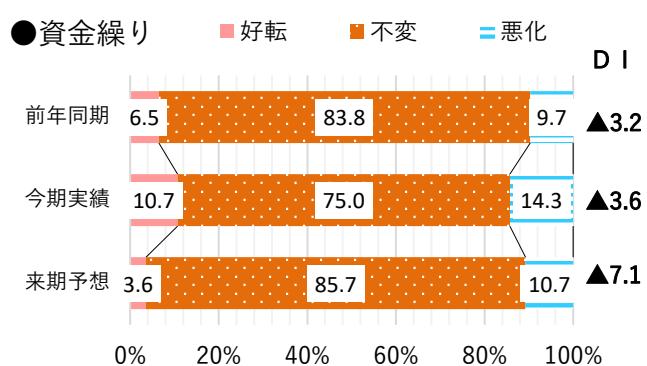
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	7.1%
	不足	7.1%
不变だった	過剰	0%
	適正	39.3%
	不足	21.4%
減少した	過剰	3.6%
	適正	3.6%
	不足	17.9%

回答総数28社

資金繰り、設備投資

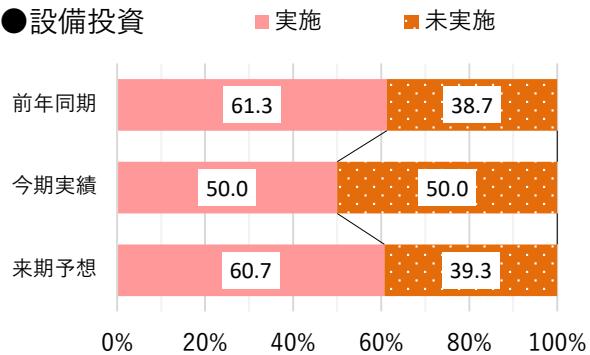
今期の資金繰りDIは▲3.6で、前年同期と比べ0.4ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ3.5ポイント低下すると予想しています。



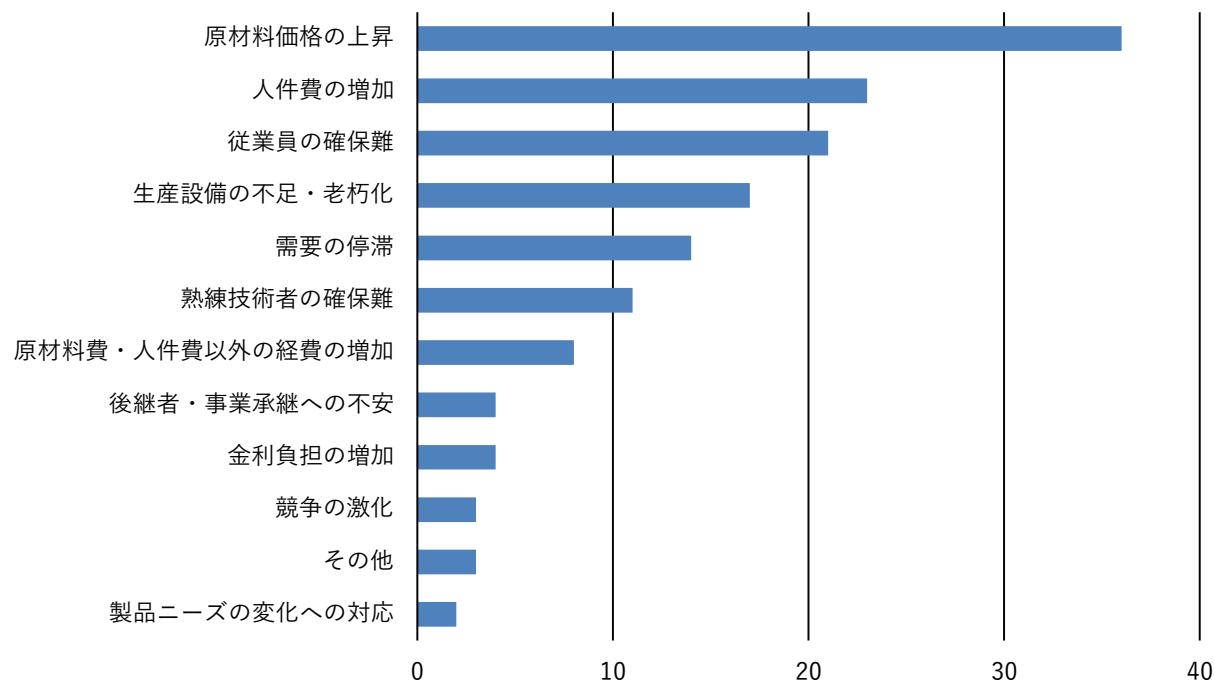
今期の設備投資は50.0%が実施と回答し、前年同期と比べ11.3%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」でした。

来期は60.7%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 年末商材の価格競争による売上減少、仕入価格の上昇、最低賃金の上昇、その他諸経費の上昇により業況が悪化した。（食料品）
- 海外からの輸入原料の入荷遅れの影響を受け、必要な時期に充分な出荷が出来なかったので売上が減少した。（食料品）
- 原料単価が上昇したが、受注も増えたので売上が増加した。ただ、人材は不足している。（食料品）
- 仕入価格は上昇、売上額は4%減少し、従業員が1名不足している。（食料品）
- 値上げにより収益率は改善したが、売上は減少した。（食料品）
- 商品の全体的な値上げを実施した。（食料品）
- 大幅に遅れていた大型プロジェクトが徐々に動き出したことから、若干薄日が差してきた。原材料

価格は落ち着いた状況が続いている。（金属製品）

- メーカーが価格を下げたので売上が減少した。人材は募集をしているが応募が無い。（金属製品）
- 廃業などの同業他社の減少のため業況が好転した。（金属製品）
- 求人募集をしているが、面接段階にも至らない。（金属製品）
- 仕入価格に関してはユーロ高が大きく影響している。（飲料）
- 第一次産業分野の取引が大半のプラスチック製品製造を行っており、11月から前年同期比、前月比で明らかに引き合いが減少した。中でも、農業関係では玉ねぎとジャガイモの不作、水産関係はホタテと秋鮭の不漁が影響している。仕入価格は常に円安の影響が大きい。従業員は会社を運営する最低限の人数の確保はできており、最低賃金改訂の発表があれば外部流出阻止の目的で、速やかに賃上げ実施している。（プラスチック）
- ジャガイモ、玉ねぎの不作、鮭の不漁により売上数量が例年と比べ大きく減少。特に道東地区の売上減少が大きい。また、物価高による買い控えで売上減少も続いている。（プラスチック）
- 販売価格は上昇したが、出荷量の減少により売上はほぼ横ばいとなり、工場の稼働率の低下と人員確保難が続く。（プラスチック）
- 材料仕入単価の一部が上昇し、生産量、販売量共に下降したため今期は業況が悪化した。（紙製品）
- 売上は増加したが、仕入価格や経費も増加し収支は微増となった。（紙製品）
- 防衛省被服類の発注数量の増加が業況の好転につながっている。（衣服）
- 今期は前年に比べて売上、利益が上昇したが費用も増加した。また、これまで外注していた委託工場の社員化とそれに伴う10月からの賃上げで、費用がさらに増加した。（ゴム製品）

[来期の業況について]

- 円安による仕入価格の上昇、嗜好品の買い控え等により先行き不透明な部分が大きく、悪化の傾向がどこまで続くのか見通しが立たない。（食料品）
- 5月以降に値上げを実施し、前年並の売上になる予定である。また、1~2名の人材確保を行う。（食料品）
- 9月から年末までが販売時期なので、売上は減少する。（食料品）
- 売上が減少したままだと来期も厳しい。（食料品）
- 前期と同等に推移すると予想している。（食料品）
- 冬期のアイス需要に左右される。（食料品）
- 大型プロジェクトの本格稼働と原材料価格の落ち着いた推移を予想する。（金属製品）
- 廃業などの同業他社の減少のため業況が好転すると考える。（金属製品）
- 来期も継続して求人募集をする。（金属製品）
- 来期のユーロは高止まりと予測する。（飲料）
- 来期について今期と変化があるとすれば売上額部分のみである。例年1~3月は弊社にとって不需要期で、12月の引合い状況を見る限り楽観視できないのが実情で前期から数%悪化すると予想する。（プラスチック）
- 農産品、水産品の収穫量減少により、小規模食品加工会社は原料調達に苦慮することが考えられる。これに物価高も重なり、今期より厳しさが増すと思われる。（プラスチック）
- 人件費の上昇や光熱費の増加など、運送コストの上昇を販売価格に転嫁したい。（プラスチック）
- 材料仕入価格が今期に続き上昇すると予想している。（紙製品）
- 費用の増加が想定される。（紙製品）
- 引き続き防衛省被服類の発注増量に期待しているがまだ不透明である。（衣服）
- 受注数の減少や最低賃金、仕入価格の上昇などが見込まれる。（その他繊維製品）

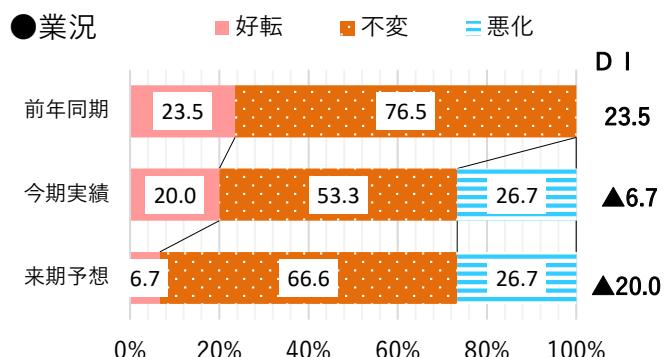
卸 売 業

業況、売上、採算

今期（2025.10～12）の業況判断DIは▲6.7で、前年同期（2024.10～12）と比べ30.2ポイントと大幅に低下しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。

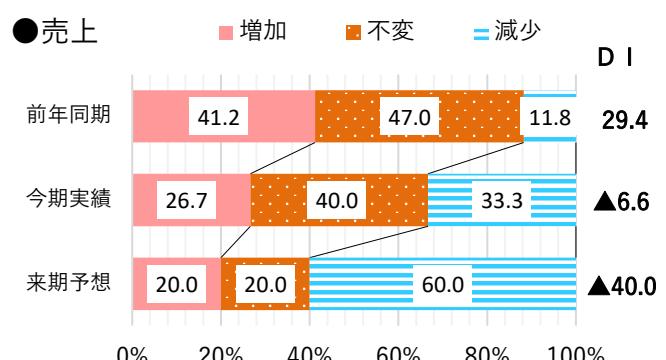
●業況



今期の売上DIは▲6.6で、前年同期と比べ36.0ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ33.4ポイント低下すると予想しています。

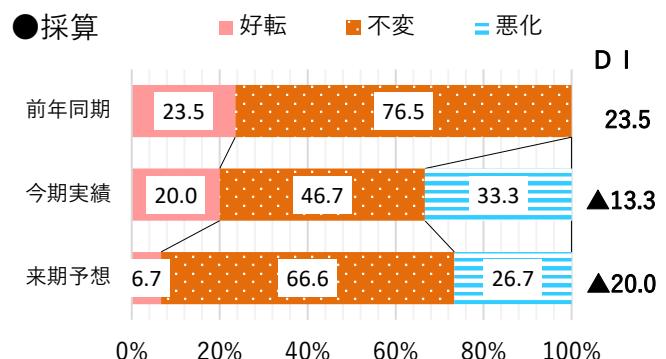
●売上



今期の採算DIは▲13.3で、前年同期と比べ36.8ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ6.7ポイント低下すると予想しています。

●採算

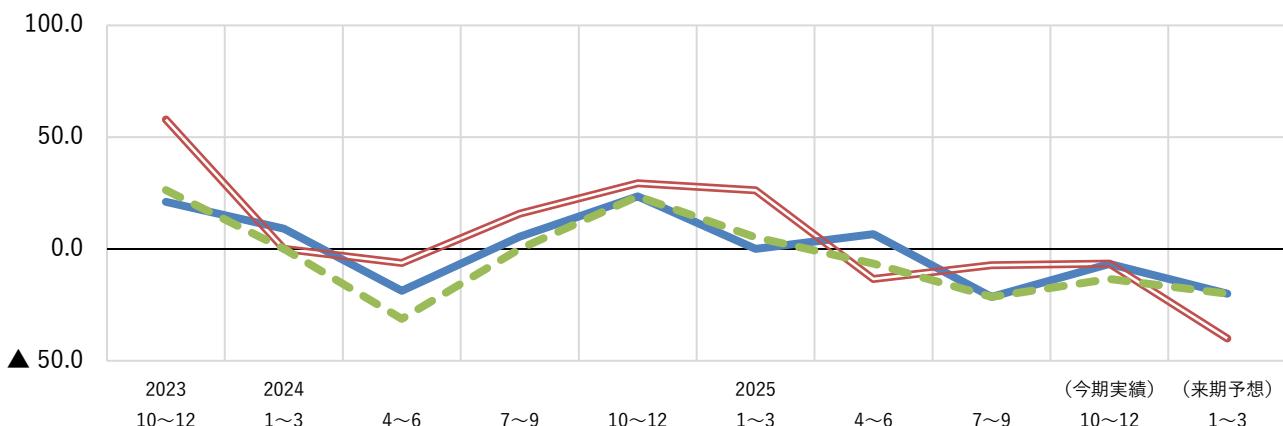


●主要3項目DIの推移

— 業況判断

— 売上高

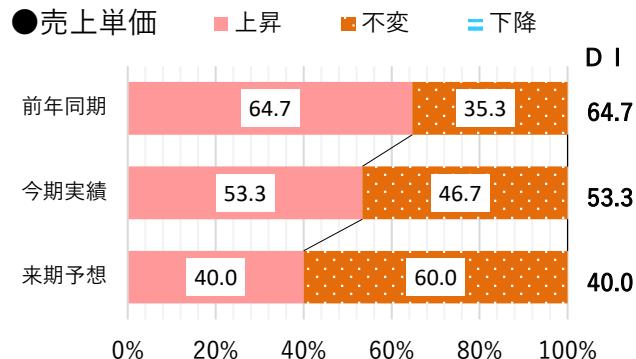
— 採算



売上単価、商品仕入単価

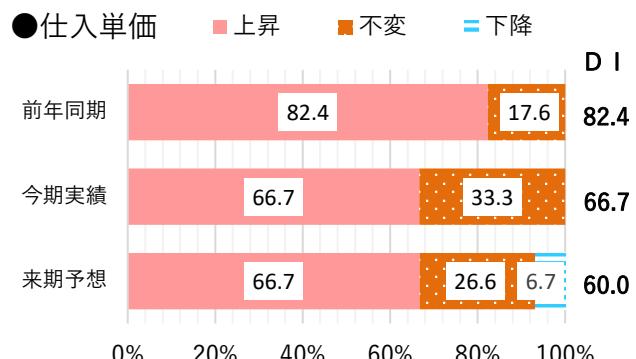
今期の売上単価DIは53.3で、前年同期と比べ11.4ポイント低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは66.7で、前年同期と比べ15.7ポイント低下しました。

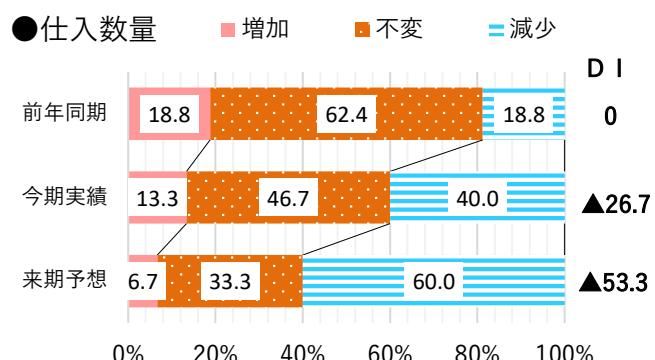
来期の仕入単価DIは今期と比べ6.7ポイント低下すると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

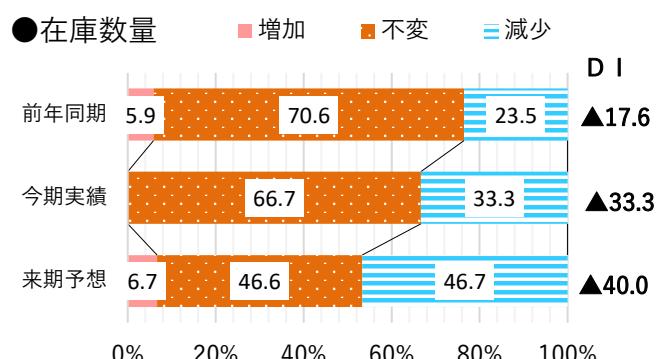
今期の仕入数量DIは▲26.7で、前年同期と比べ26.7ポイント低下しました。

来期の仕入数量DIは今期と比べ26.6ポイント低下すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲33.3で、前年同期と比べ15.7ポイント低下しました。

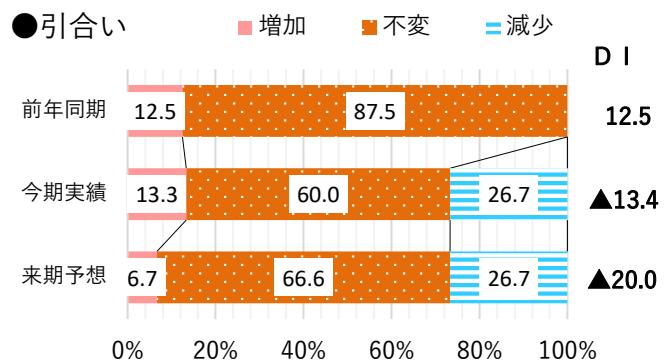
来期の在庫数量DIは今期と比べ6.7ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲13.4で、前年同期と比べ25.9ポイント低下しました。

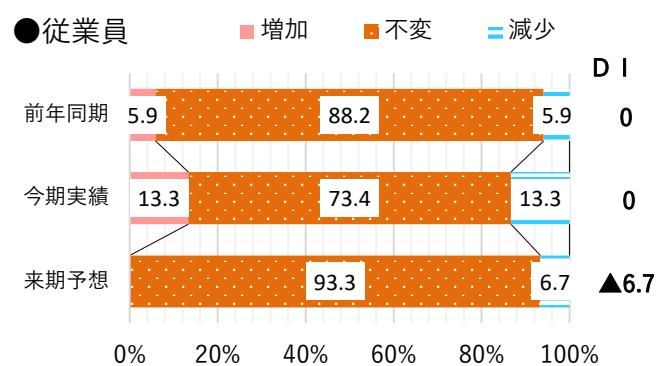
来期の引合いDIは今期と比べ6.6ポイント低下すると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

来期の従業員DIは今期と比べ6.7ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は86.7%、不足していると回答した企業の割合は13.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、66.7%を占めました。

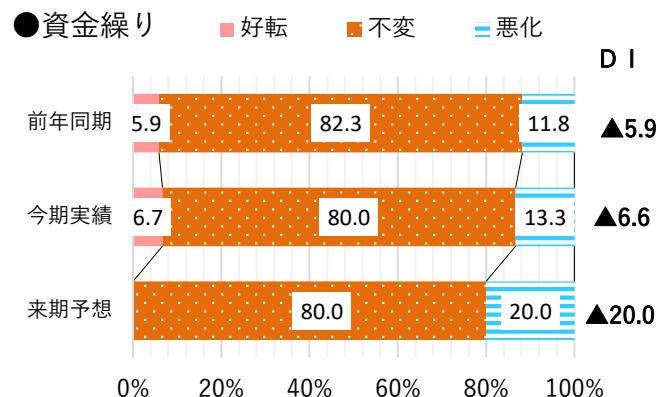
	今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%	
	適正	13.3%	
	不足	0%	
不变だった	過剰	0%	
	適正	66.7%	
	不足	6.7%	
減少した	過剰	0%	
	適正	6.7%	
	不足	6.7%	

※回答総数15社

資金繰り、設備投資

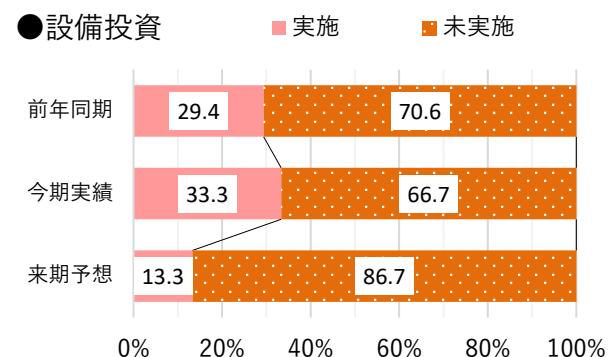
今期の資金繰りDIは▲6.6で、前年同期と比べ0.7ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ13.4ポイント低下すると予想しています。



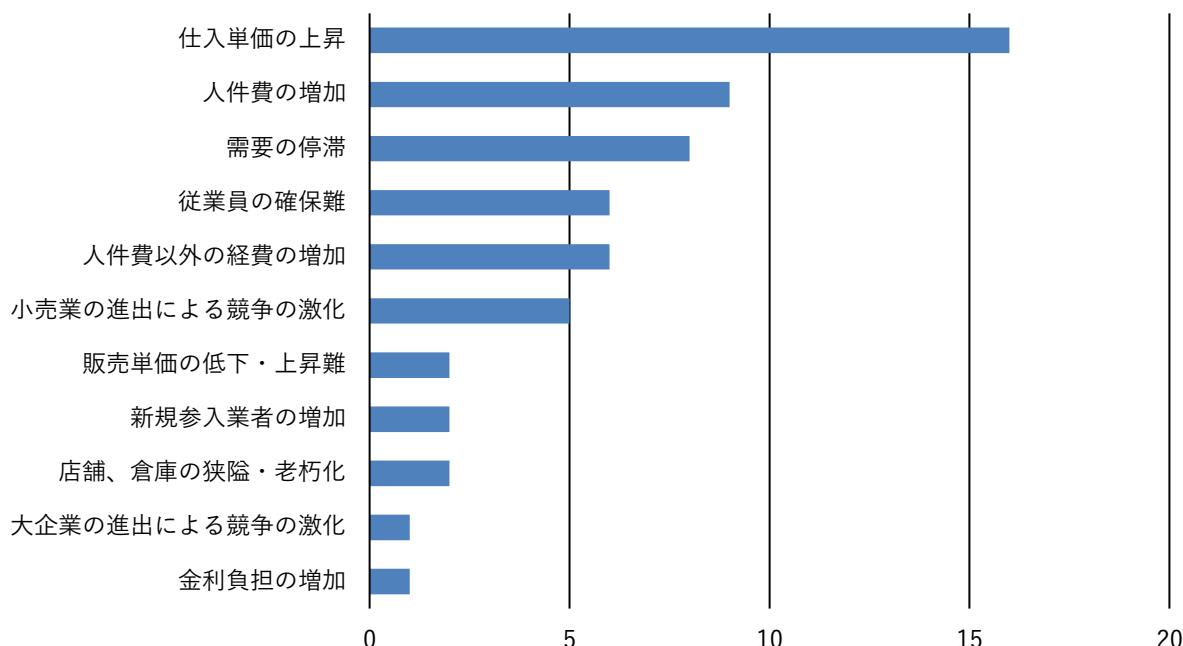
今期の設備投資は33.3%が実施と回答し、前年同期と比べ3.9%上昇しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期は13.3%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「需要の停滞」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 上期の売上は大阪万博の影響で減少し、仕入単価の上昇分を価格転嫁しきれていなく、最低賃金の引上げに伴い人件費が増加した。（食料・飲料）
- 仕入価格が上昇している。（食料・飲料）
- 値上げにより、売上と仕入はともに上昇し、パートを1名採用した。（建築材料）
- 仕入単価、OA機器の使用料、工料などの上昇と従業員の不足があった。（自動車部品）
- 今期はパソコンの特需があり売上が増加した。（事務用品）
- 価格の高止まりにより販売量が減少し、今期は繁忙期がないまま終了する見通しである。
(鉱物・金属材料)

[来期の業況について]

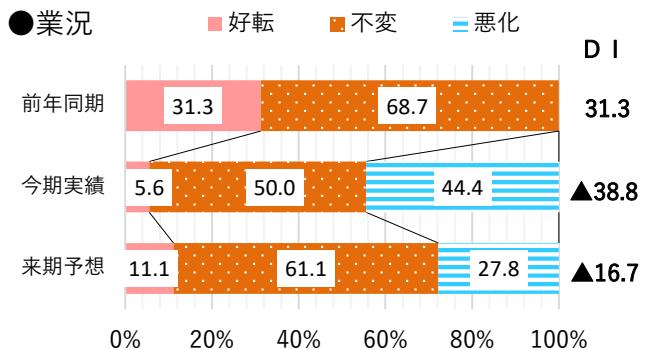
- 来期以降も、仕入価格の高騰や人件費の増加、水道光熱費などの負担が続くと思われ、金利の上昇も追い打ちとなり、業況の好転は見込めない。（食料・飲料）
- JRTTの工事現場の終了は進んでいるが、泊発電所関連工事が増えてくると思う。（建築材料）
- 今期の業況と同様と思われる。（自動車部品）
- 来期は例年通りに戻ると思う。（事務用品）
- 来期も引き続き苦戦が続く見通しである。（鉱物・金属材料）

小 売 業

業況、売上、採算

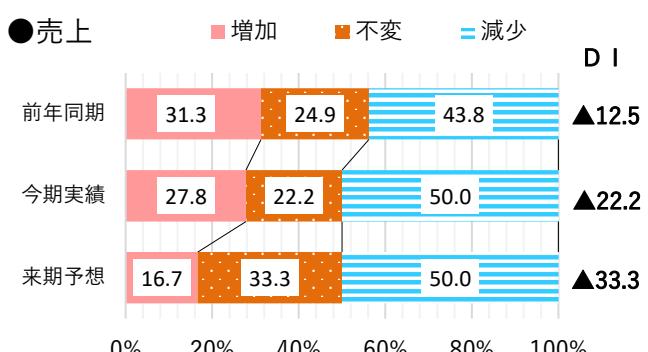
今期（2025.10～12）の業況判断DIは▲38.8で、前年同期（2024.10～12）と比べ70.1ポイントと大幅に低下しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ22.1ポイント上昇すると予想しています。



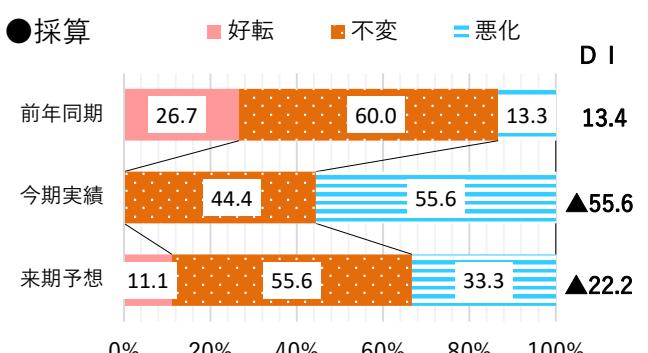
今期の売上高DIは▲22.2で、前年同期と比べ9.7ポイントと低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ11.1ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは▲55.6で、前年同期と比べ69.0ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ33.4ポイント上昇すると予想しています。

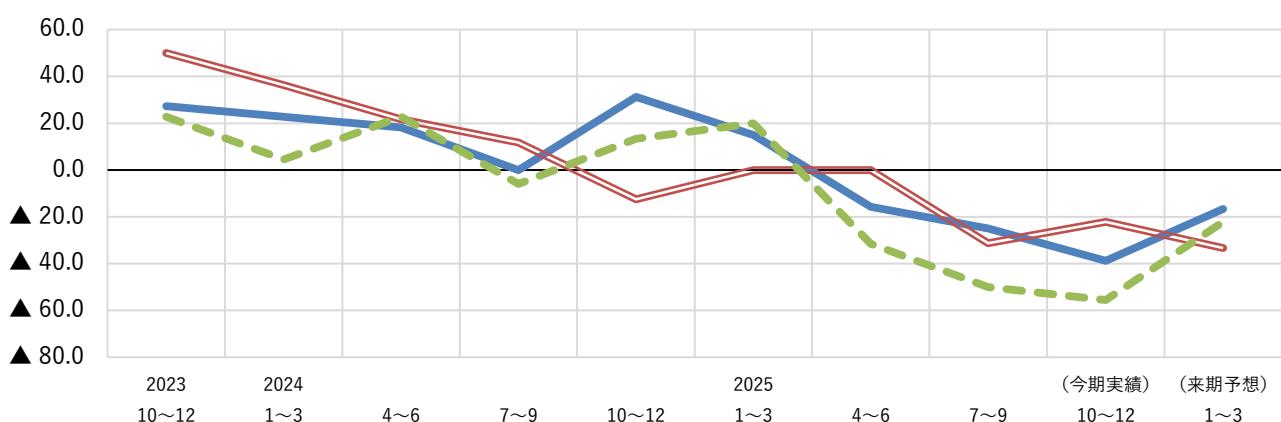


●主要3項目D Iの推移

— 業況判断

— 売上高

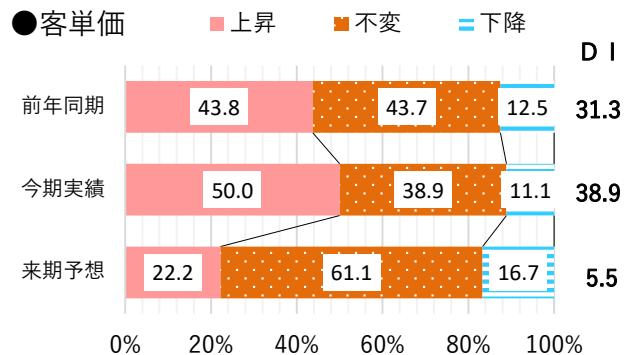
— 採算



客単価、客数

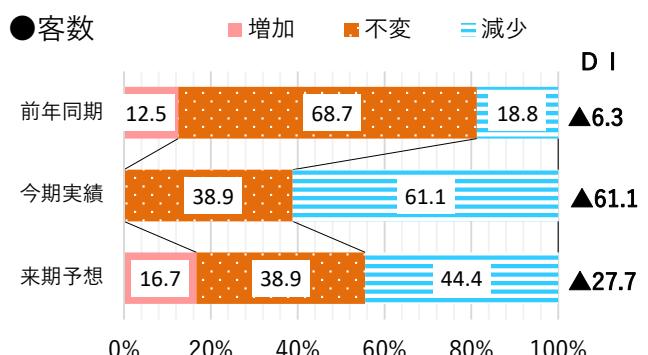
今期の客単価DIは38.9で、前年同期と比べ7.6ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは今期と比べ33.4ポイント低下すると予想しています。



今期の客数DIは▲61.1で、前年同期と比べ54.8ポイントと大幅に低下しました。

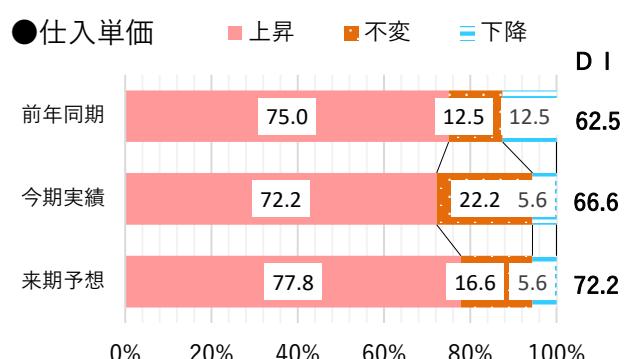
来期の客数DIは今期と比べ33.4ポイント上昇すると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

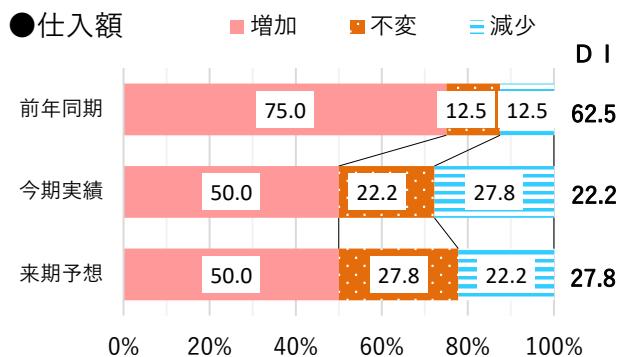
今期の仕入単価DIは66.6で、前年同期と比べ4.1ポイント上昇しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ5.6ポイント上昇すると予想しています。



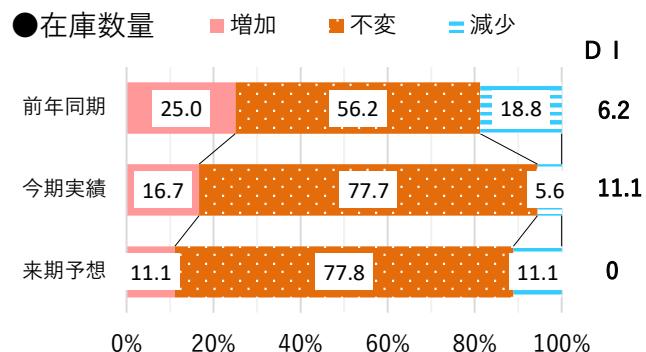
今期の仕入額DIは22.2で、前年同期と比べ40.3ポイントと大幅に低下しました。

来期の仕入額DIは今期と比べ5.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の在庫数量DIは11.1で、前年同期と比べ4.9ポイント上昇しました。

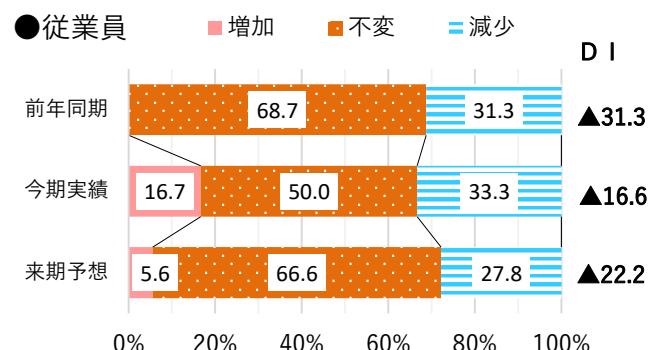
来期の在庫数量DIは今期と比べ11.1ポイント低下すると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

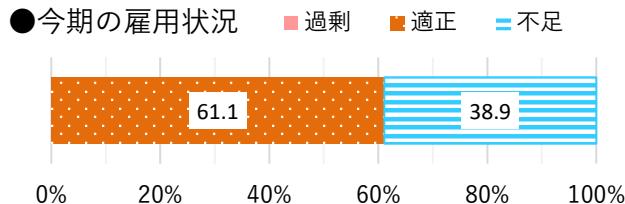
今期の従業員DIは▲16.6で、前年同期と比べ14.7ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ5.6ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は61.1%、不足していると回答した企業の割合は38.9%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、44.4%を占めました。



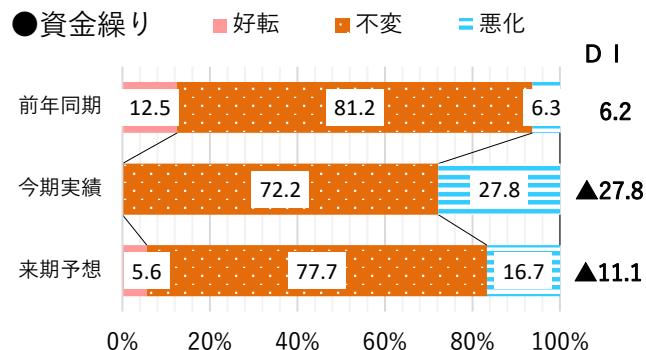
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	11.1%
	不足	5.6%
不变だった	過剰	0%
	適正	44.4%
	不足	5.6%
減少した	過剰	0%
	適正	5.6%
	不足	27.8%

※回答総数18社

資金繰り、設備投資

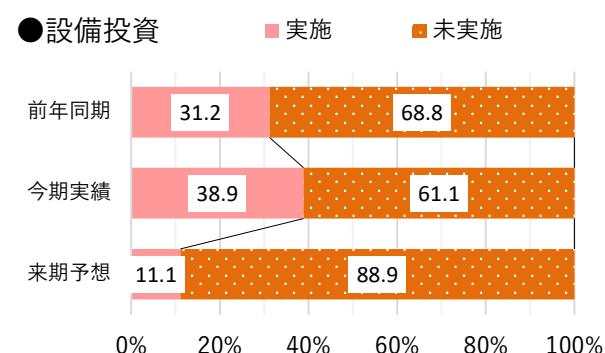
今期の資金繰りDIは▲27.8で、前年同期と比べ、34.0ポイントと大幅に低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ16.7ポイント上昇すると予想しています。



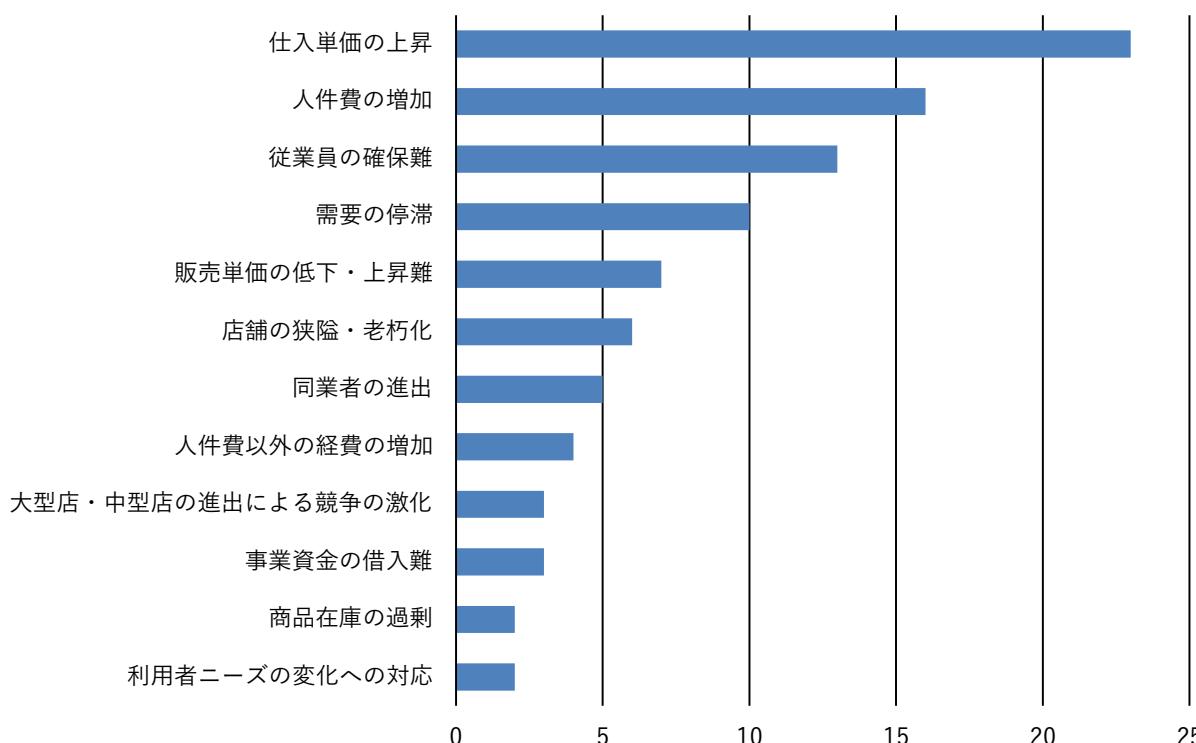
今期の設備投資は38.9%で、前年同期と比べ7.7%上昇しました。投資内容は1位が「店舗」、2位が「販売設備」「車両運搬具」「OA機器」（同位）でした。

来期は11.1%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上は微増したが、水道光熱費が大幅に増加したため利益が低下した。（ホームセンター）
- 最低賃金の引き上げや仕入価格の上昇で業況が悪化した。（食肉小売）
- 人口の減少により売上も減少していると思われる。（コンビニ）
- 原材料、包装資材の値上げがあった。（菓子製造小売）
- 半導体などの仕入商品の納期の長期化によって今期売上見込みが来期になる可能性がある。
(自動車小売)
- 利用客の減少と賃金の上昇により利益が減少傾向にある。（自動車小売）
- プレミアム付商品券のおかげで売上額が上がっている。（時計小売）
- 企業としてマーケットの縮小に合わせるのが難しい。（花・植木小売）

[来期の業況について]

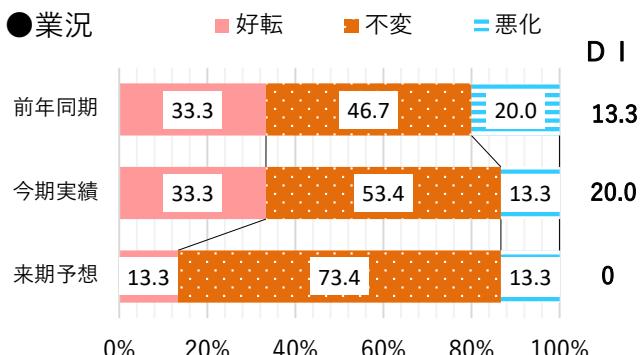
- 原材料、包装資材の値上げが続くと予想する。（菓子製造小売）
- 物価高騰による修理控えや車両入替を抑える傾向が見受けられる。（自動車小売）
- プレミアム付商品券分の売上が無くなるので、業況が悪化すると判断している。（時計小売）
- 生産性を上げて人口減少と雇用人数の不足を乗り切る予定である。（花・植木小売）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

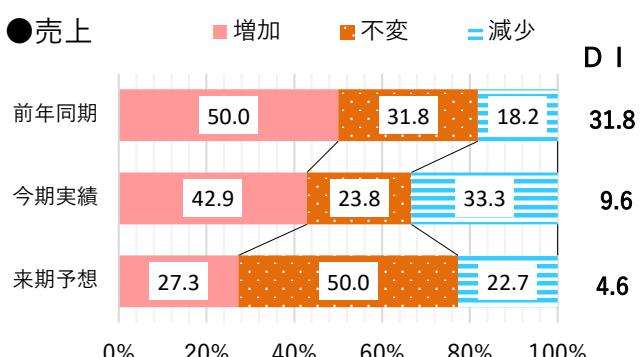
今期（2025.10～12）の業況判断DIは20.0 ●業況で、前年同期（2024.10～12）と比べ6.7ポイント上昇しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期と比べ（2025.10～12）20.0ポイント低下すると予想しています。



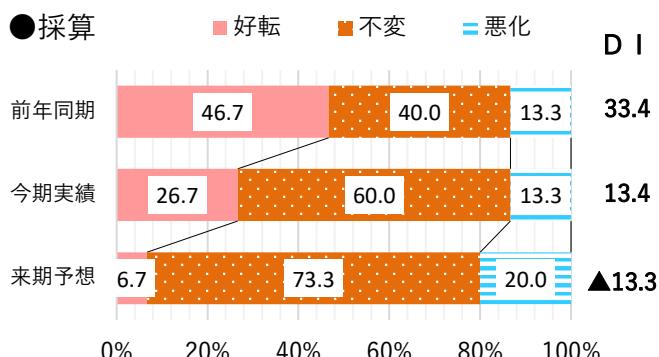
今期の売上高DIは9.6で、前年同期と比べ22.2ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ5.0ポイント低下すると予想しています。

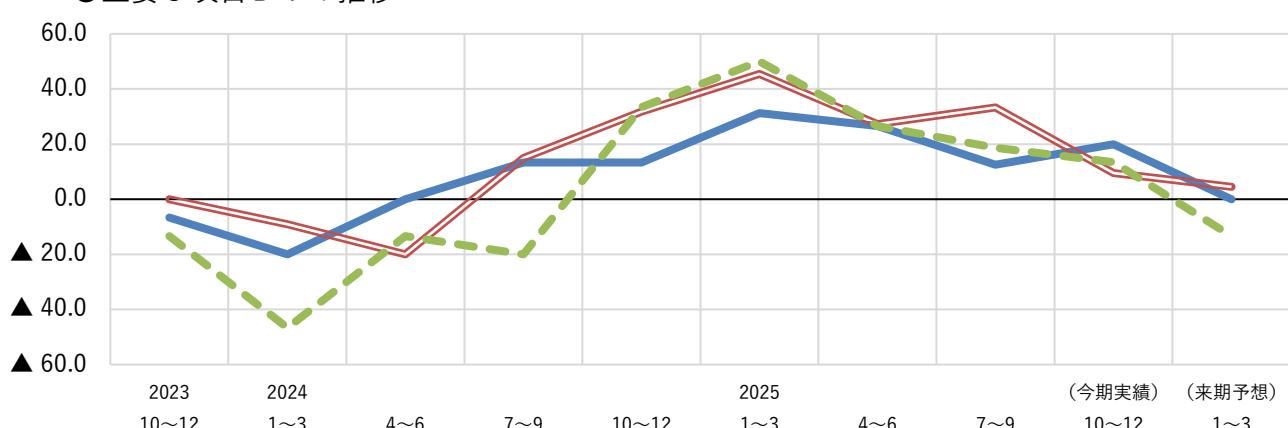


今期の採算DIは13.4で、前年同期と比べ20.0ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ26.7ポイント低下すると予想しています。



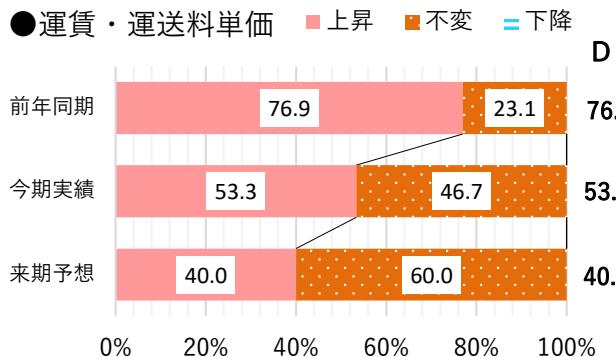
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

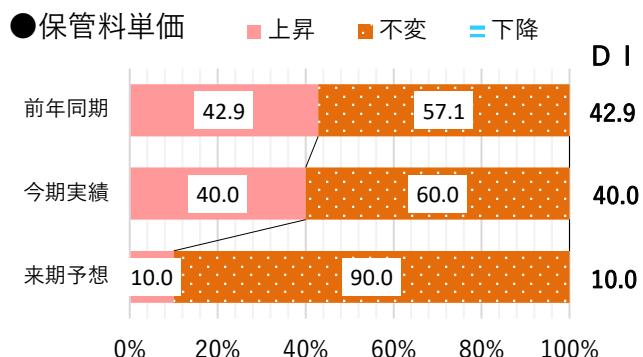
今期の運賃・運送料単価DIは53.3で、前年同期と比べ23.6ポイント低下しました。

来期の運賃・運送料単価DIは今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



今期の保管料単価DIは40.0で、前年同期と比べ2.9ポイント低下しました。

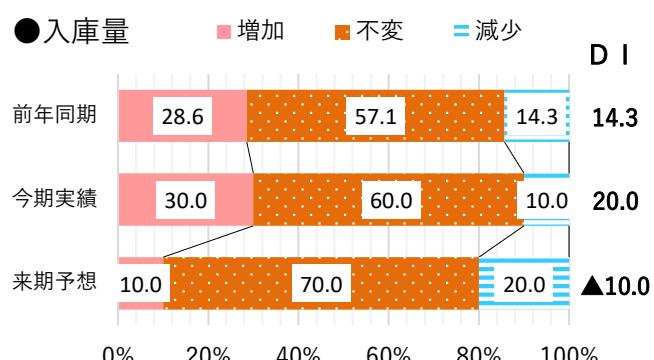
来期の保管料単価DIは今期と比べ30.0ポイント低下すると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

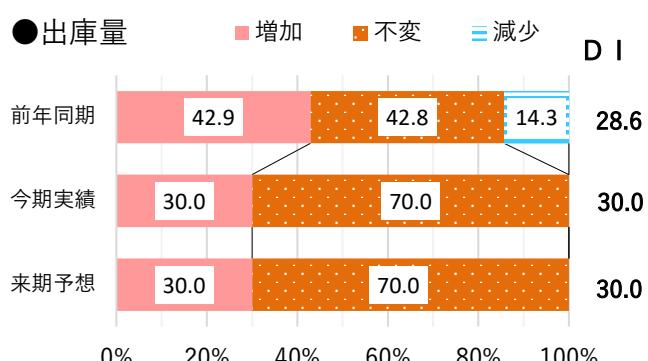
今期の入庫量DIは20.0で、前年同期と比べ5.7ポイント上昇しました。

来期の入庫量DIは今期と比べ30.0ポイント低下すると予想しています。



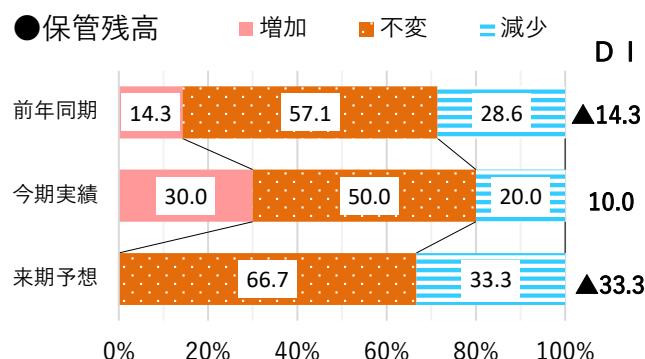
今期の出庫量DIは30.0で、前年同期と比べ1.4ポイント上昇しました。

来期の出庫量DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の保管残高DIは10.0で、前年同期と比べ24.3ポイント上昇しました。

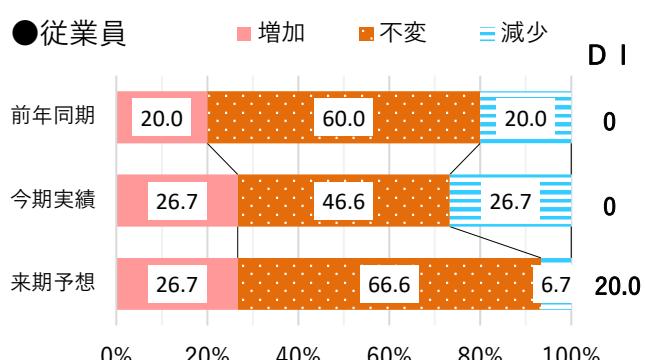
来期の保管残高DIは今期と比べ43.3ポイント低下すると予測しています。



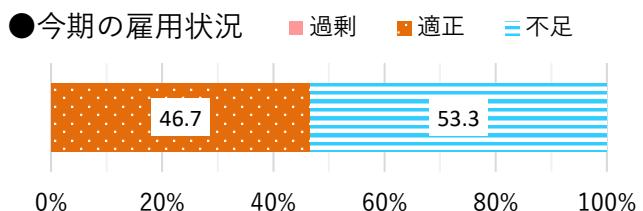
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

来期の従業員DIは今期と比べ20.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は46.7%、不足していると回答した企業の割合は53.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、40.0%を占めました。

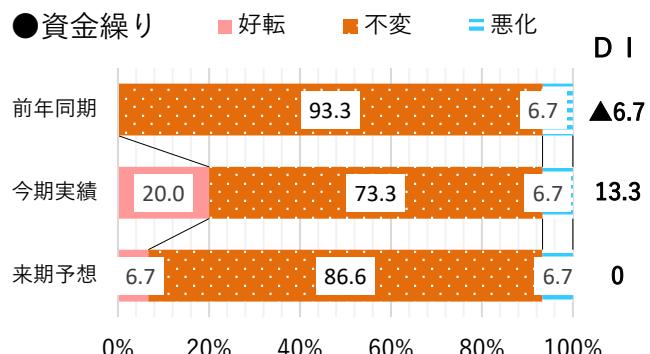
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	6.7%
	不足	20.0%
不变だった	過剰	0%
	適正	40.0%
	不足	6.7%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	26.7%

※回答総数15社

資金繰り、設備投資

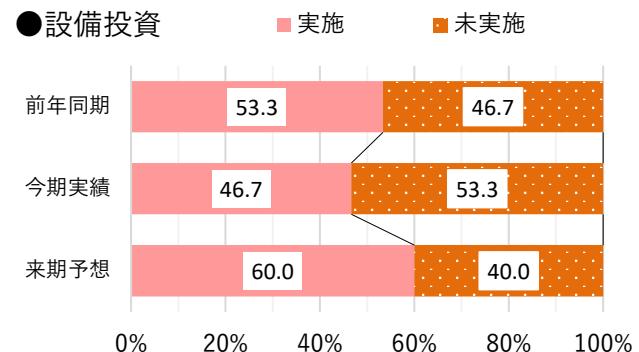
今期の資金繰りDIは13.3で、前年同期と比べ20.0ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



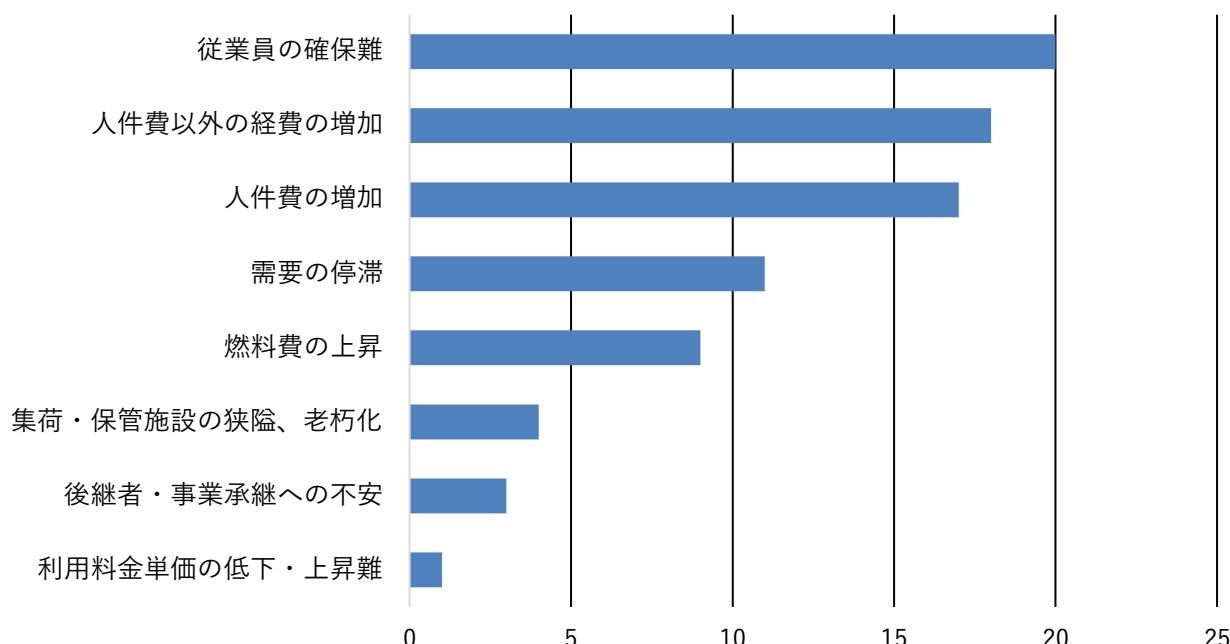
今期の設備投資はを46.7%が実施と回答し、前年同期と比べ6.6%低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「集荷・保管施設」「OA機器」「福利厚生施設」（同位）でした。

来期は60.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「人件費の増加」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上は微増したが、人件費や燃料などの経費の増加により採算は良いとは言えない。（道路旅客運送）
- 高齢化により、乗務員が減少している。（道路旅客運送）
- 売上額が増加した。（道路旅客運送）
- 単価の上昇と新規顧客獲得の成果もあり、賃金を上昇させたが業績は好転している。（道路貨物運送）
- 玉ねぎやジャガイモなどの野菜が不作で、運送量が減少した。（道路貨物運送）
- 新幹線関連の工事の運搬量増加に伴い売上が増加した。（道路貨物運送）
- 価格転嫁により売上額が上昇した。（道路貨物運送）
- 燃料費が落ち着いてきている。（道路貨物運送）
- 備蓄米の出庫があったことで保管残高は減少した。（港湾運送）
- 不漁や天候不順による生育不良で水産品や農作物の貨物の減少が著しい。コロナ渦以降、旅客の好調が続いていることにより、新造船の就航も後押しとなった。人材確保は苦戦している。（水運）
- 入庫量が大幅に減少した。（倉庫）
- 売上単価が増加した。（倉庫）

[来期の業況について]

- 運賃の値上げに期待している。（道路旅客運送）
- 売上の維持を予想する。（道路旅客運送）
- 1月～3月では荷動きがほぼないので、運輸部門での売上が減少となる見込みである。（道路貨物運送）
- さらなる単価適正化に向けて行動している。（道路貨物運送）
- 旅客は国内旅行ブーム継続を見込む。貨物は天候次第で年々北海道も猛暑傾向にあるが、来期も不变と推察する。人材確保は苦戦を予想する。（水運）
- 出庫量の増加が予想される。（倉庫）

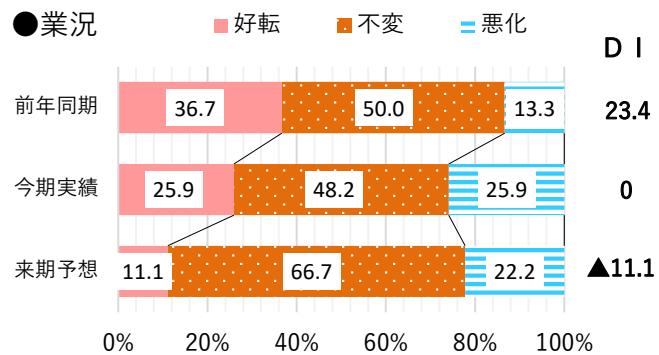
観光業

業況、売上、採算

今期（2025.10～12）の業況判断DIは0で、前年同期（2024.10～12）と比べ23.4ポイント低下しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ11.1ポイント低下すると予想しています。

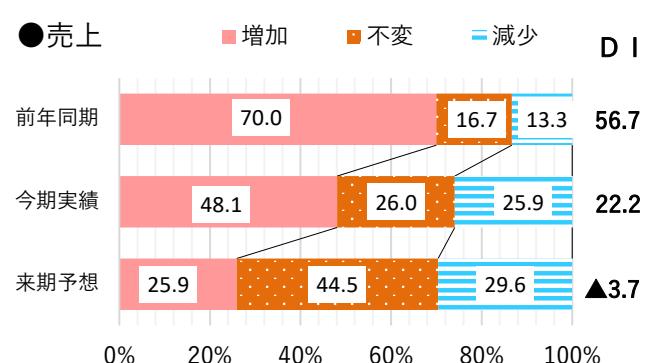
●業況



今期の売上DIは22.2で、前年同期と比べ34.5ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ25.9ポイント低下すると予想しています。

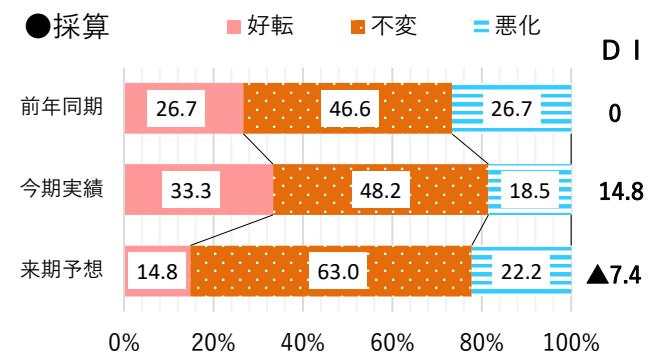
●売上



今期の採算DIは14.8で、前年同期と比べ14.8ポイント上昇しました。

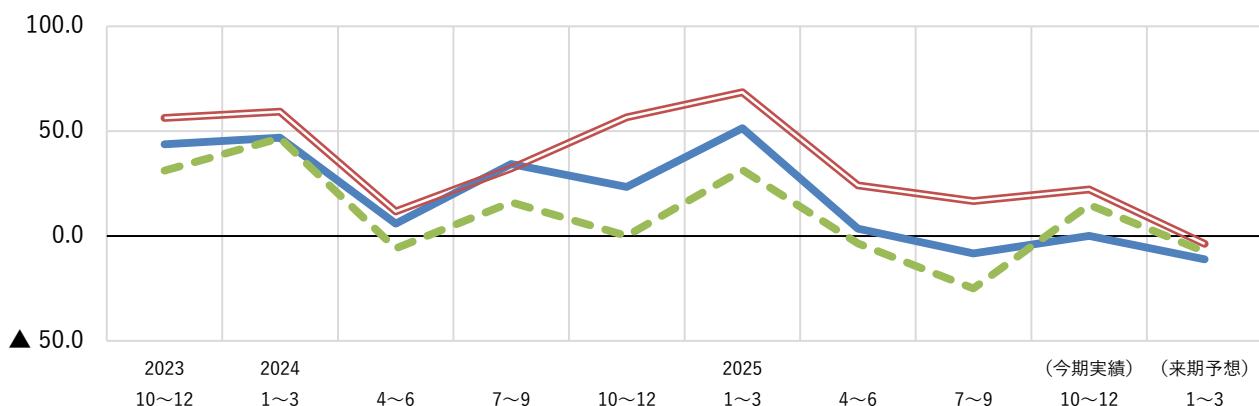
来期の採算DIは今期と比べ22.2ポイント低下すると予想しています。

●採算



●主要3項目DIの推移

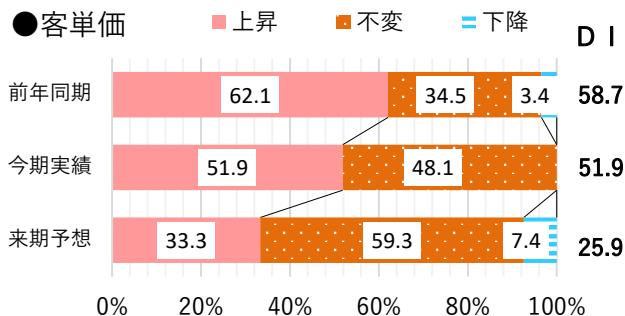
— 業況判断 — 売上高 - - - 採算



客单価、利用客数、日本人客数、外国人客数

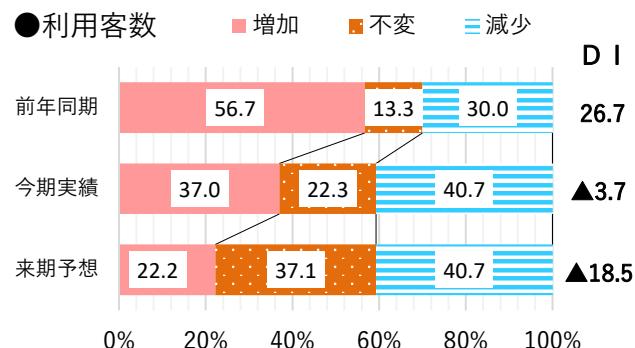
今期の客单価DIは51.9で、前年同期と比べ6.8ポイント低下しました。

来期の客单価DIは今期と比べ26.0ポイント低下すると予想しています。



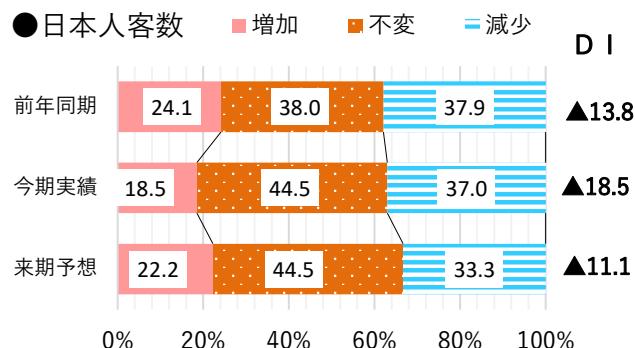
今期の利用客数DIは▲3.7で、前年同期と比べ30.4ポイントと大幅に低下しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ14.8ポイント低下すると予想しています。



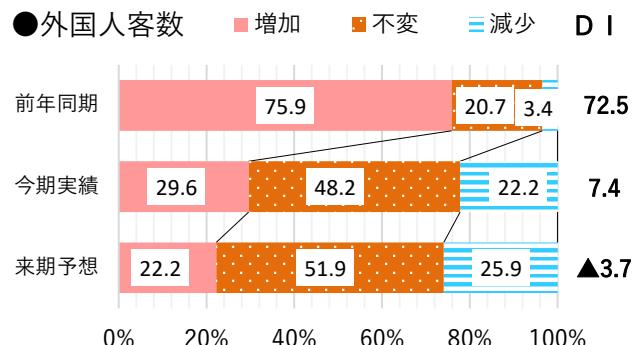
今期の日本人客数DIは▲18.5で、前年同期と比べ4.7ポイント低下しました。

来期の日本人客数DIは今期と比べ7.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の外国人客数DIは7.4で、前年同期と比べ65.1ポイントと大幅に低下しました。

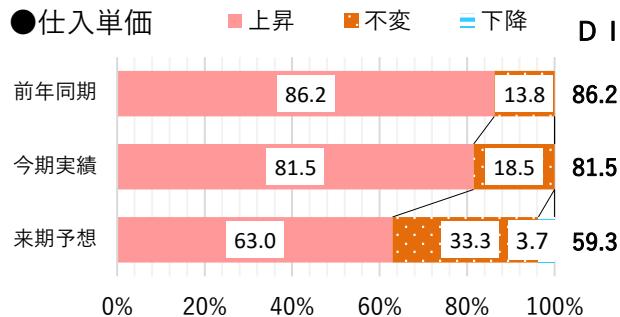
来期の外国人客数DIは今期と比べ11.1ポイント低下すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは81.5で、前年同期と比べ4.7ポイント低下しました。

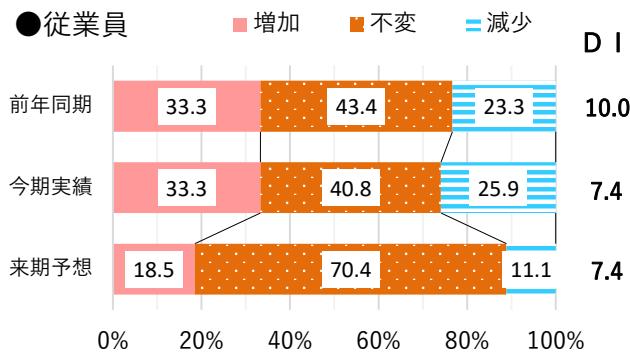
来期の仕入単価DIは今期と比べ22.2ポイント低下すると予想しています。



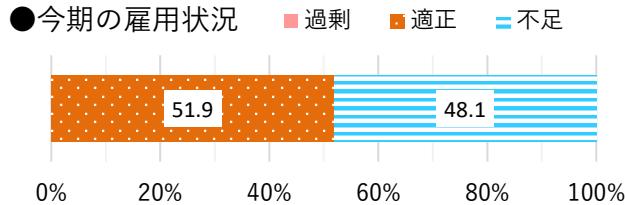
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは7.4で、前年同期と比べ2.6ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は51.9%、不足していると回答した企業の割合は48.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、29.6%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	18.5%
	不足	11.1%
不变だった	過剰	0%
	適正	29.6%
	不足	14.8%
減少した	過剰	0%
	適正	3.7%
	不足	22.2%

※回答総数27社

資金繰り、設備投資

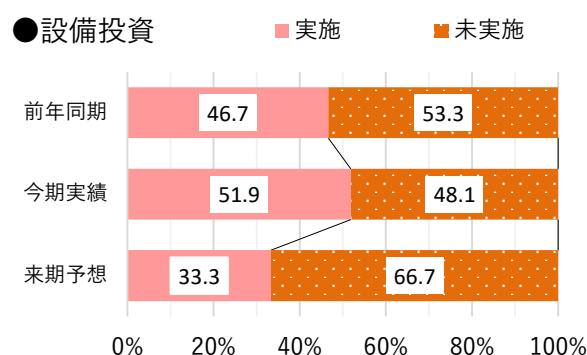
今期の資金繰りDIは11.1で、前年同期と比べ8.9ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ22.2ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は51.9%が実施と回答し、前年同期と比べて5.2%上昇しました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「サービス設備」でした。

来期は33.3%が設備投資を計画していると回答しています。

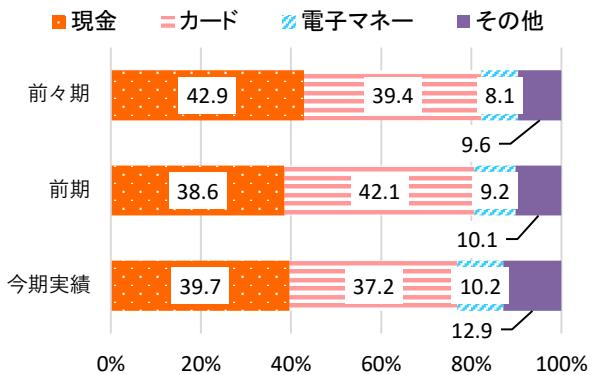


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で39.7%、2位がカードで37.2%、3位がその他で12.9%、4位が電子マネーで10.2%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、掛売り、ポイント支払い、クーポン券、バウチャー券、銀行振込、プレミアム付商品券の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

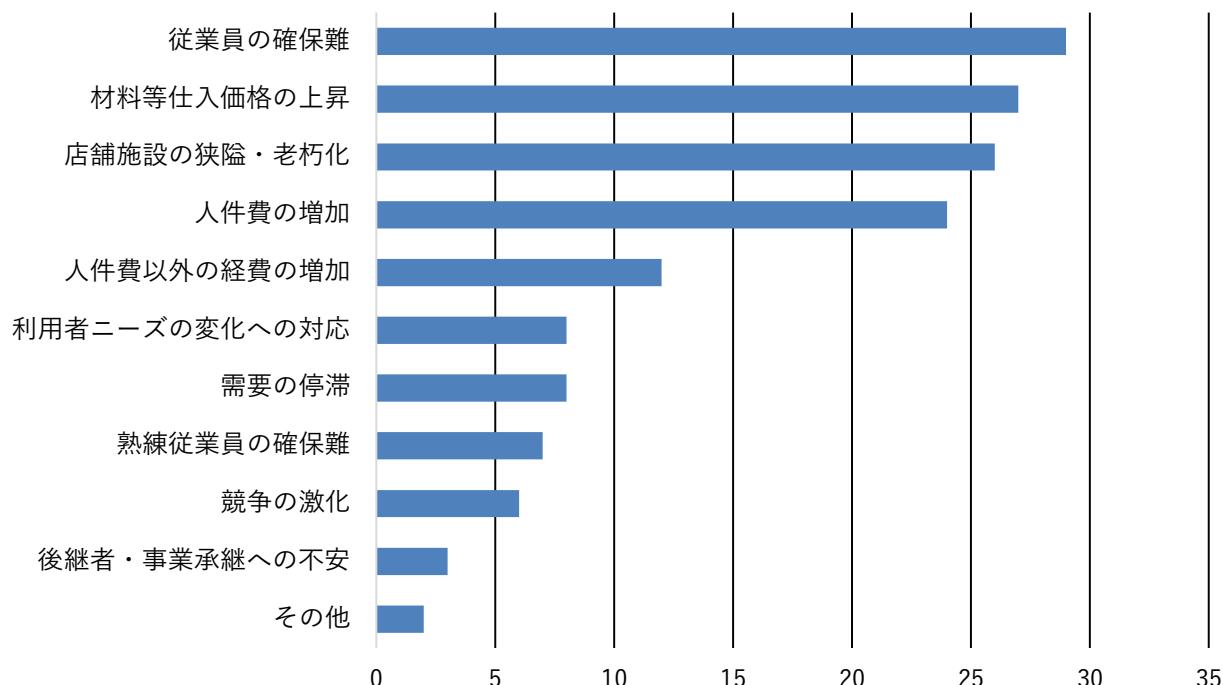


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は63.7%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上額は前年とさほど変わらないが、仕入価格、人件費、最低賃金の上昇などで経常利益が伸びなかった。
(飲食)
- 地元のお客様が少し増えてきて少し安心した。 (飲食)
- 中国人観光客が減少すると思われる。 (飲食)
- とにかく仕入単価が上昇している。 (飲食)
- 売上高は、前期比、前年同期比でほぼ同額であった。日本人観光客は減少かつ買控えであったが、外国人観光客は人数も購買意欲も変わらず個人客が増加傾向にあった。販促作戦として小容量かつ価格を抑えた製品の売れ行きが好調で、物価高で費用が増加したが、利幅の大きい製品の販売が良く収支も不变となつた。人手不足は変わらないが、外国人への積極的アプローチで1名増加した。 (土産品)
- 新店の台頭により、全体売上が増加したが、仕入価格や人件費の上昇のため利益はほぼ横ばいで推移している。 (土産品)
- 価格を見直したので単価は上がったが、客数は減少した。 (土産品)
- 海外客の増加、単価アップにより、売上が増加した。 (土産品)
- インバウンドは減少気味だが、その理由は現在の日中関係悪化によるものではない。 (ホテル)
- 中国の動向の影響もあるが他国からのインバウンド客で補填できている。 (ホテル)
- 仕入価格の上昇とインバウンド客の減少で業況が悪化した。 (ホテル)
- 電気、油の価格上昇分が全ての商品の物価高に響いている。 (ホテル)
- インバウンドの需要の増加により利益効率が向上した。 (ホテル)
- 例年に比べて外国人客が増加した。 (社会教育)
- 売上、乗船客数共に昨年同期よりも増加した。 (水運)

■今期はシーズンオフのため、大きな変動がなかった。 (娯楽)

[来期の業況について]

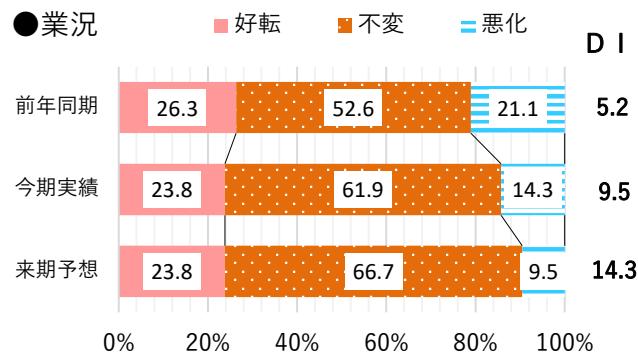
- 商品の値上げで対応して採算を合わせたいが、お客様が購買してくれるか不安である。 (飲食)
- 今期と同じ状況、もしくは仕入価格や人件費のさらなる上昇が見込まれる。 (飲食)
- バイトやパートのスタッフの確保が難航しているので大変である。 (飲食)
- 中国人観光客の宿泊キャンセルが出てきている。 (飲食)
- 日本人観光客の減少や買控え傾向の継続と突然始まった中国人観光客の減少を考慮して来客数、売上高、利益の減少を予想している。特に雪まつりが厳しいと考える。費用の高騰も続き、特に原料である新米が高騰し、製造原価が大きく増大しているので、減益は避けられない。優秀な外国人からの応募が増えしており、外国人との良好な共生職場環境を急ぎ検討、整備する必要がある。 (土産品)
- 海外客が減る報道が出ており、売上が減少すると予想している。 (土産品)
- 原価が上がっているので採算性は低下する見込み。 (土産品)
- 来期大きく伸びる要素は見当たらないが、近隣ホテルの増加が影響してくると予想する。 (ホテル)
- 道内の中国人インバウンド客の減少と、小樽エリアの競合施設の増加が見込まれる。 (ホテル)
- 仕入価格とインバウンド客数が好転する見込みがない。 (ホテル)
- サービスを上昇し、さらなる集客を目指す。 (ホテル)
- 外国人客の来館状況は不透明だが、前年よりも増加する可能性が高いと思われる。 (社会教育)
- 1年で最も閑散期となるため、売上、乗船客数共に減少が見込まれる。 (水運)
- 来期もシーズンオフの為大きな変動がない。 (娯楽)

サービス業

業況、売上、採算

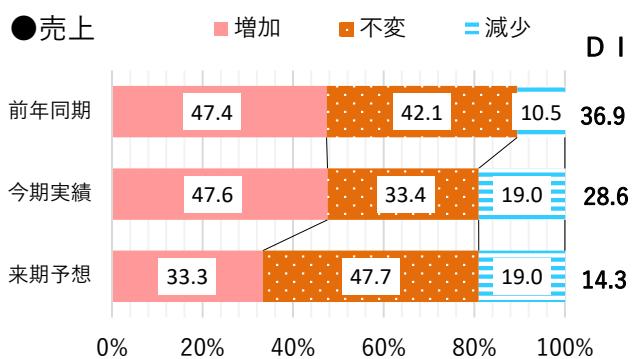
今期（2025.10～12）の業況判断DIは9.5で、前年同期（2024.10～12）と比べ4.3ポイント上昇しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ4.8ポイント上昇すると予想しています。



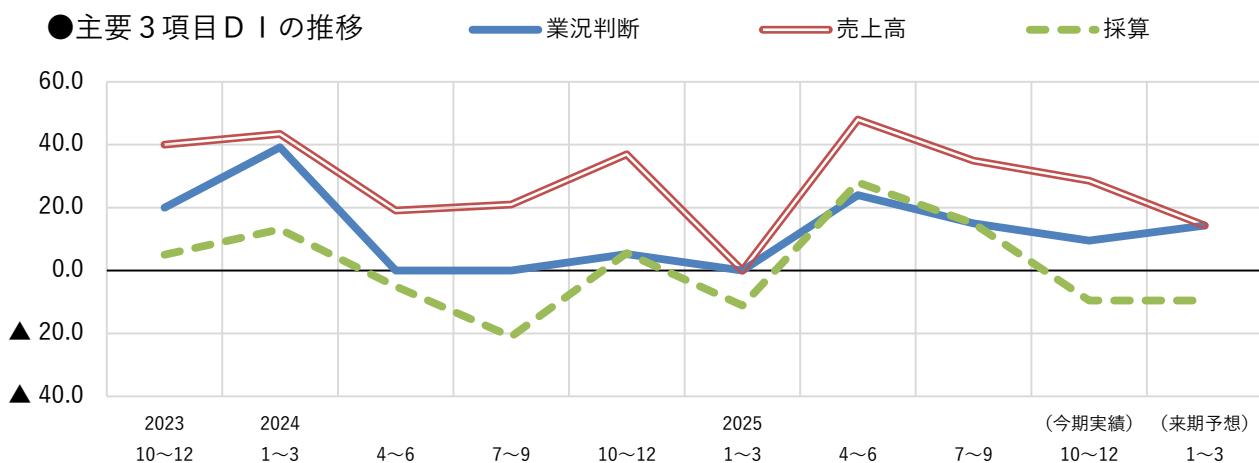
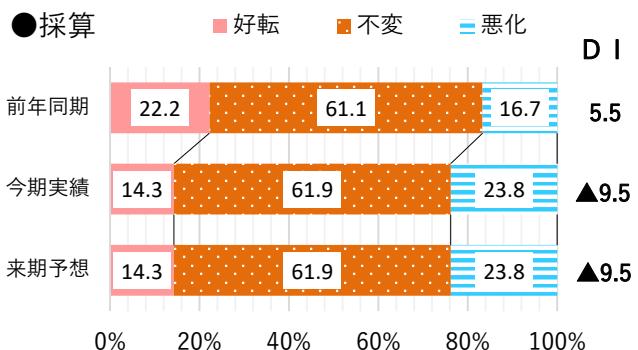
今期の売上高DIは28.6で、前年同期と比べ8.3ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ14.3ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは▲9.5で、前年同期と比べ15.0ポイント低下しました。

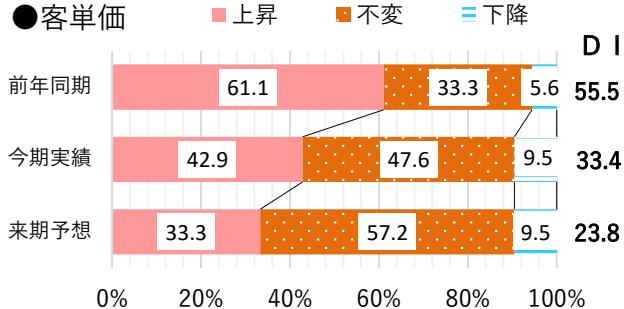
来期の採算DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

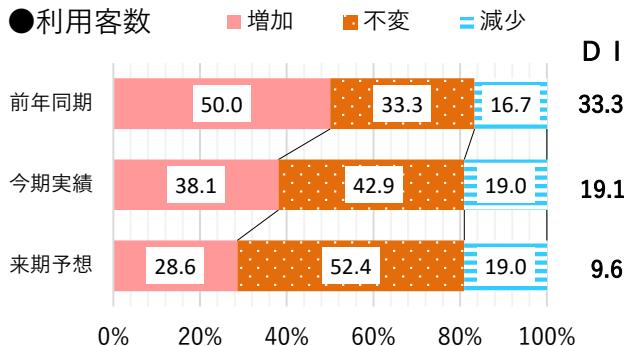
今期の客単価DIは33.4で、前年同期と比べ22.1ポイント低下しました。

来期の客単価DIは今期と比べ9.6ポイント低下すると予想しています。



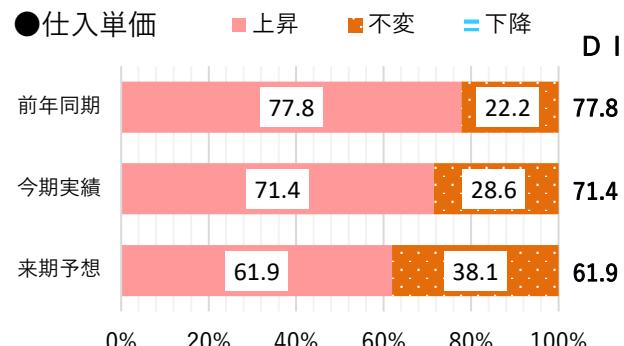
今期の利用客数DIは19.1で、前年同期と比べ14.2ポイント低下しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ9.5ポイント低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは71.4で、前年同期と比べ6.4ポイント低下しました。

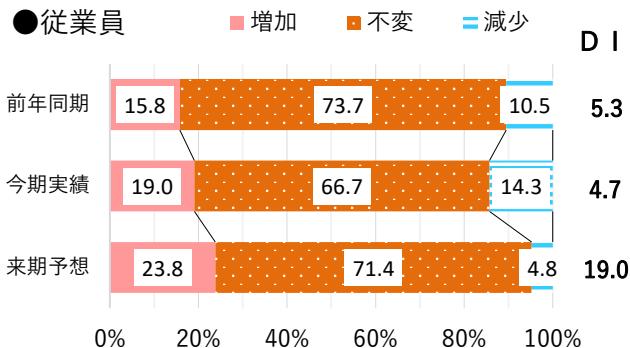
来期の仕入単価DIは今期と比べ9.5ポイント低下すると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは4.7で、前年同期と比べ0.6ポイント低下しました。

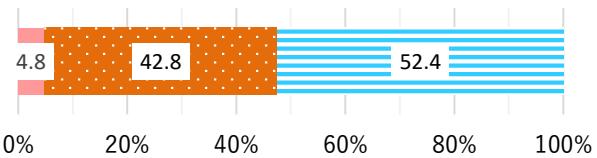
来期の従業員DIは今期と比べ14.3ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は4.8%、適正であると回答した企業の割合は42.8%、不足していると回答した企業の割合は52.4%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、どちらも33.3%を占めました。

●今期の雇用状況 ■過剰 ■適正 ■不足



今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	4.8%
	適正	9.5%
	不足	4.8%
不变だった	過剰	0%
	適正	33.3%
	不足	33.3%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	14.3%

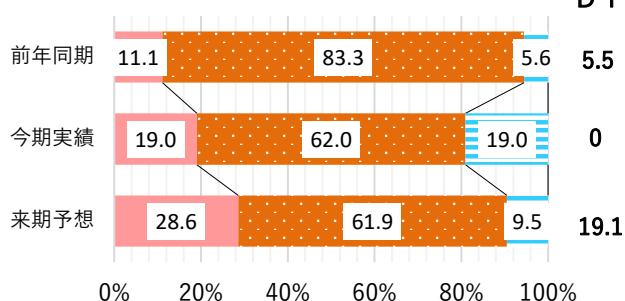
※回答総数21社

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは0で、前年同期と比べ5.5ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ19.1ポイント上昇すると予想しています。

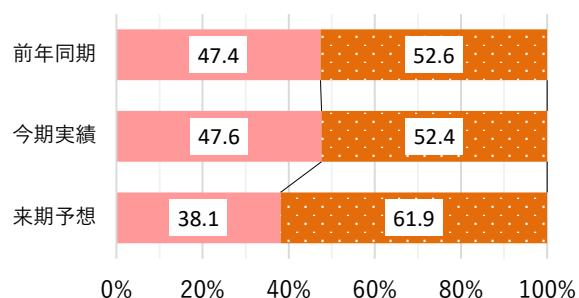
●資金繰り ■好転 ■不变 ■悪化 DI



今期の設備投資は47.6%が実施と回答し、前年同期と比べ0.2%上昇しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、「OA機器」（同位）、2位が「車両運搬具」でした。

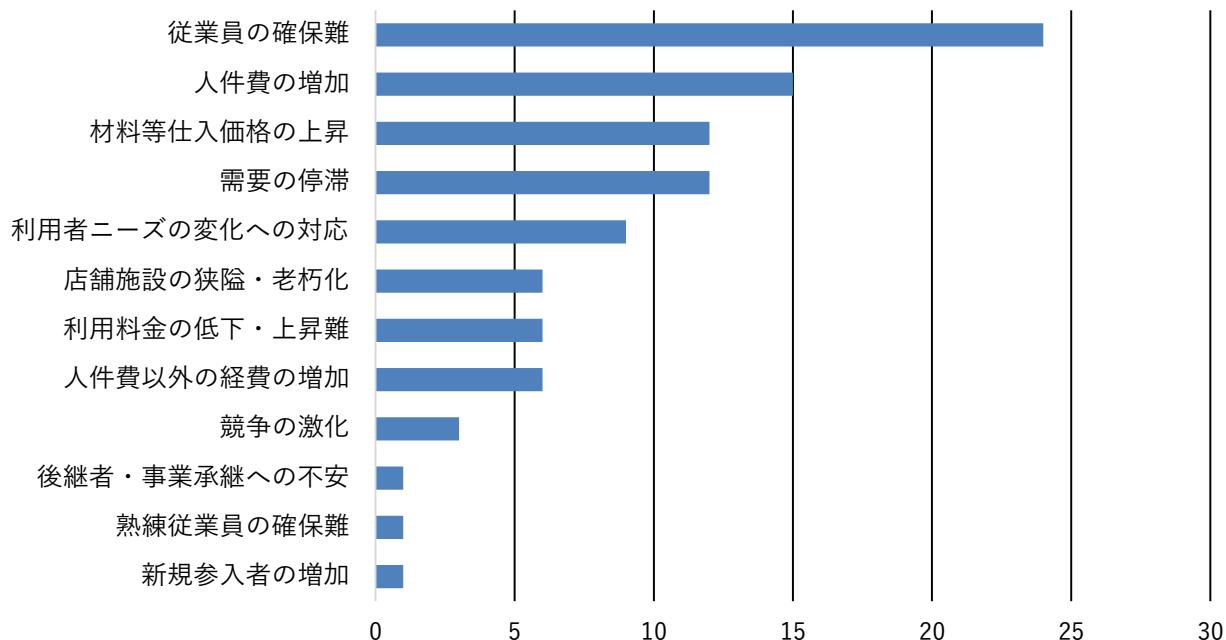
来期は38.1%が設備投資を計画していると回答しています。

●設備投資 ■実施 ■未実施



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「材料等仕入価格の上昇」、「需要の停滞」（同位）の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 物価の上昇、中でも食品の値上がりが大きく、2年半商品の値上げをしていなかったが12月に値上げを実施した。また、小樽市民は生活防衛のため価格に非常にシビアになっている。（飲食店）
- 利用客数が前年同期比で上昇したが、米の仕入価格も上昇している。人材確保については募集をかけばすぐに反応がある。（飲食店）
- 仕入価格の中でも特に魚介類の価格が高騰しており、厳しい状況である。（飲食店）
- 主要食材が値上がり傾向にあり、原価率が2~3%上昇した。（飲食店）
- 販売価格を見直し、収益が伸びた。（旅行代理店）
- 仕入額の上昇により単価の上昇を強いられたが、消費者も値上げには納得してもらい"客離れ"にはならず業況は維持できた。（写真業）
- 札幌の新店舗の売上が好転している。（写真業）
- 売上の増加と、人手不足のため人件費が抑えられ、利益は好転した。（ビルメンテナンス）
- 病院の倒産等があるも個人向けの入院セットが好調でそれに伴い人材確保が必要となっている。
(各種物品賃貸業)
- 売上自体は前期と変わらないがAIに依存する部分が多くなり、クラウドのコストが増えた。
(情報処理・提供サービス業)
- プレミアム付商品券を利用する方がメニューをプラスで注文をしていたので客単価のアップに繋がった。仕入価格は上昇しているので、セールで仕入値を抑えたり、計画的に使用するなどの工夫を心掛けている。（美容業）

[来期の業況について]

- 小樽は年金生活者が多く購買力が徐々に低下していくので今の状況が続くと思う。人手不足や店舗経営

を鑑みて事業縮小も視野に入れて考えなければならない。（飲食店）

■肌感覚だがインバウンドが減少していると思う。また、新年会などの団体の利用は不变である。

（飲食店）

■最低賃金の上昇により人件費もアップすると予想している。（飲食店）

■出版物をベースに新規事業を模索中である。（出版業）

■売上は減少する予測だが、値上交渉により利益は不变の見通しである。（ビルメンテナンス）

■AI開発により生産効率が3割程度上昇。プロダクトの開発期間が短縮し、市場に出す数を増やせたので、来期は売り上げが増加する見込みである。（情報処理・提供サービス業）

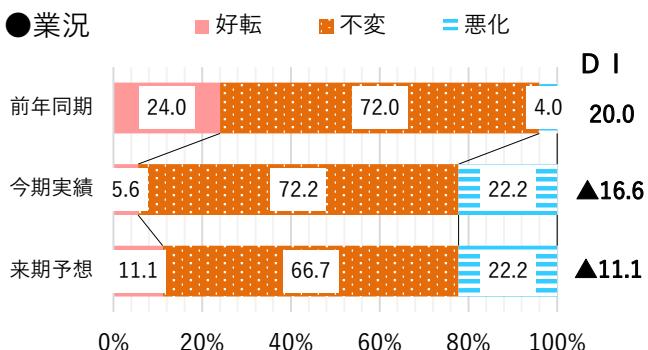
■成人式や卒業式などイベント予約が例年よりも早いので売上上昇傾向と思われる。仕入価格、人材確保、最低賃金は不变と予想する。（美容業）

建設業

業況、売上、採算

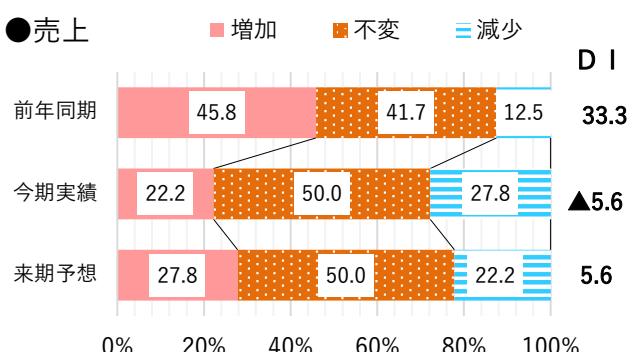
今期（2025.10～12）の業況判断DIは▲16.6で、前年同期（2024.10～12）と比べ36.6ポイントと大幅に低下しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ5.5ポイント上昇すると予想しています。



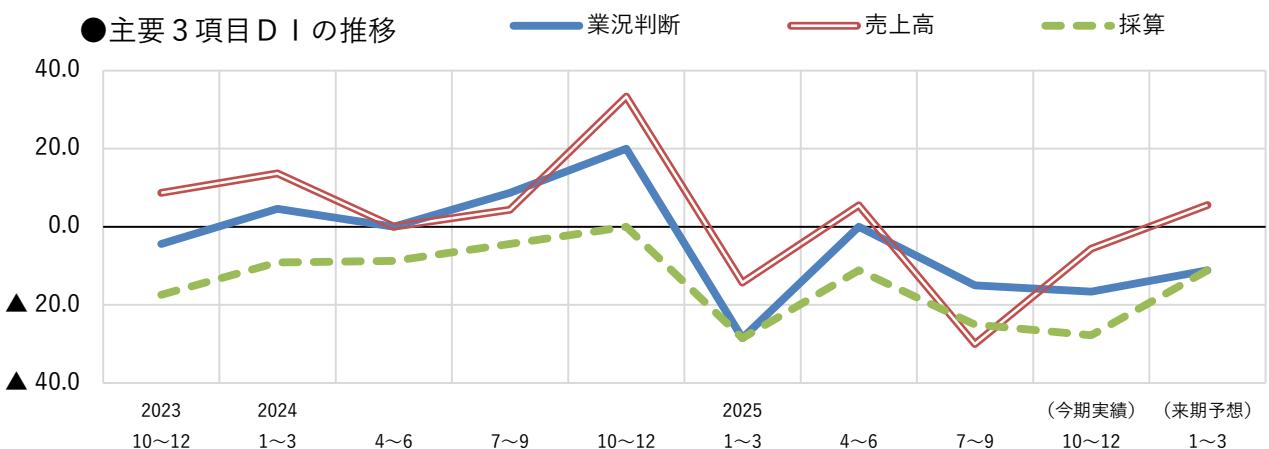
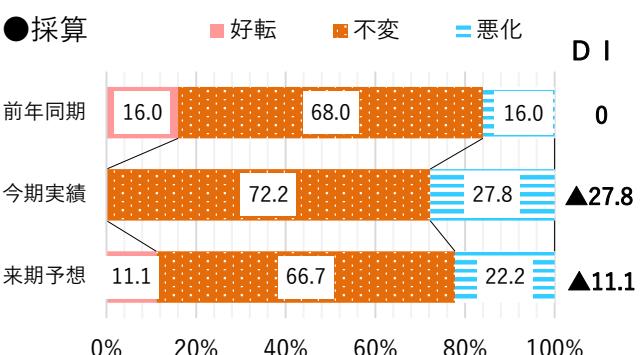
今期の売上高DIは▲5.6で、前年同期と比べ38.9ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ11.2ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは▲27.8で、前年同期と比べ27.8ポイント低下しました。

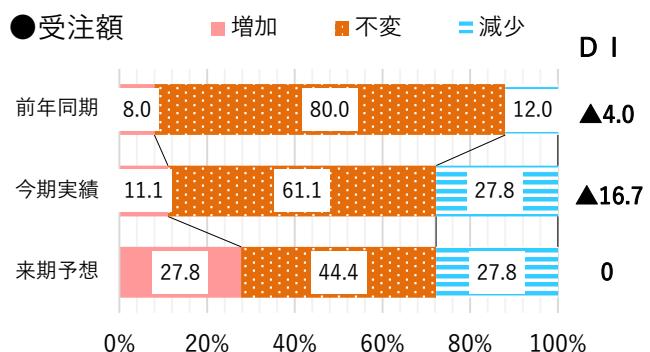
来期の採算DIは今期と比べ16.7ポイント上昇すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

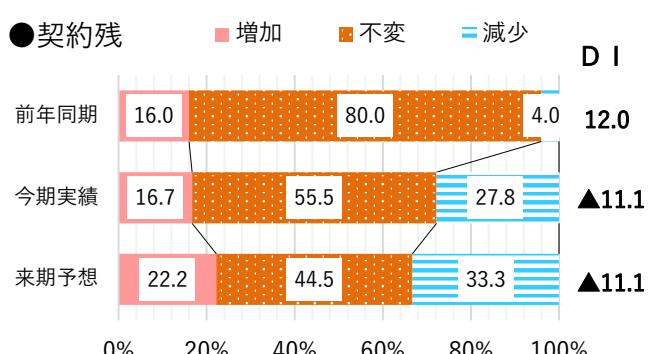
今期の受注額DIは▲16.7で、前年同期と比べ12.7ポイント低下しました。

来期の受注額DIは今期と比べ16.7ポイント上昇すると予想しています。



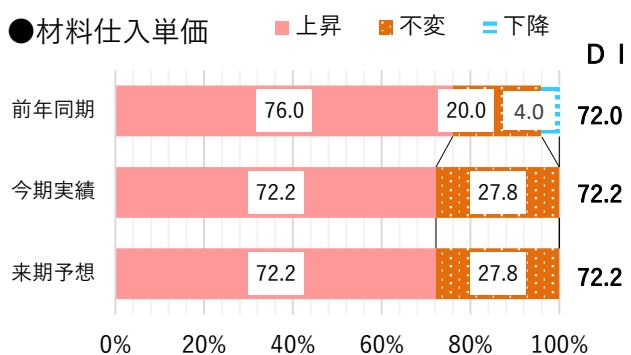
今期の契約残DIは▲11.1で、前年同期と比べ23.1ポイント低下しました。

来期の契約残DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の材料仕入単価DIは72.2で、前年同期と比べ0.2ポイント上昇しました。

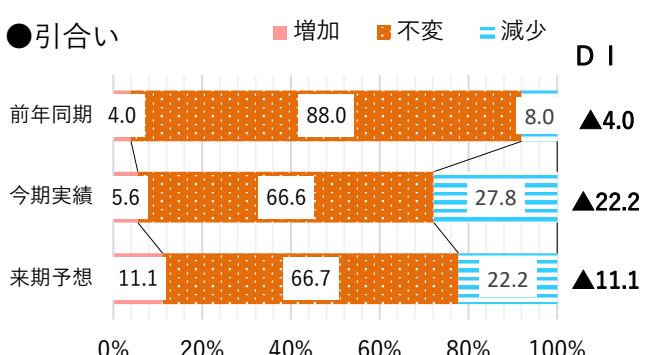
来期の材料仕入単価DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲22.2で、前年同期と比べ18.2ポイント低下しました。

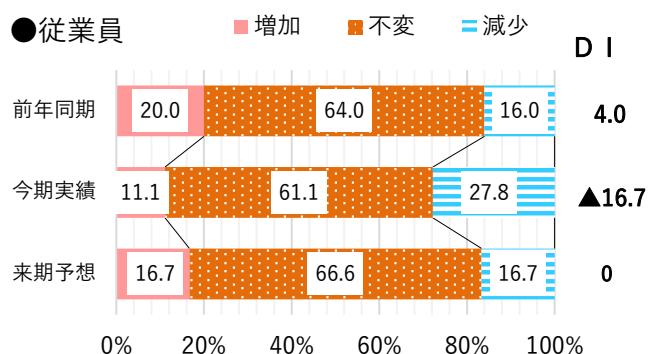
来期の引合いDIは今期と比べ11.1ポイント上昇すると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

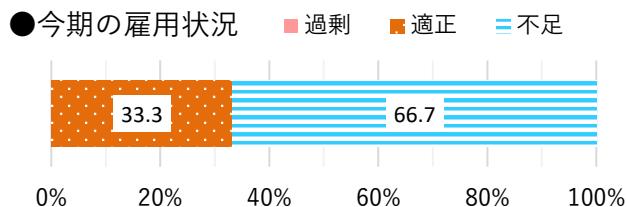
今期の従業員DIは▲16.7で、前年同期と比べ20.7ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ16.7ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は33.3%、不足していると回答した企業の割合は66.7%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、33.3%を占めました。



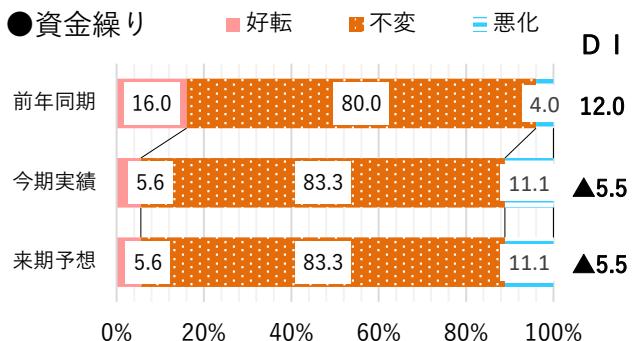
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	5.6%
	不足	5.6%
不变だった	過剰	0%
	適正	27.8%
	不足	33.3%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	27.8%

※回答総数18社

資金繰り、設備投資

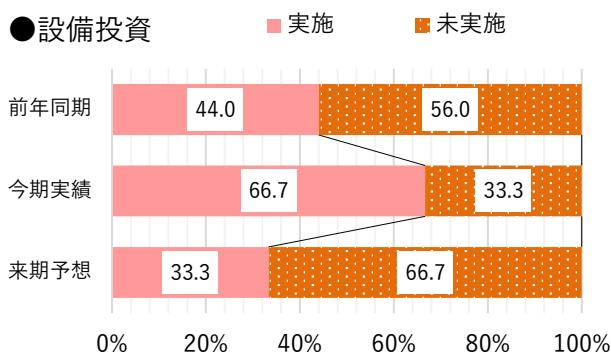
今期の資金繰りDIは▲5.5で、前年同期と比べ17.5ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ変化なしと予想しています。



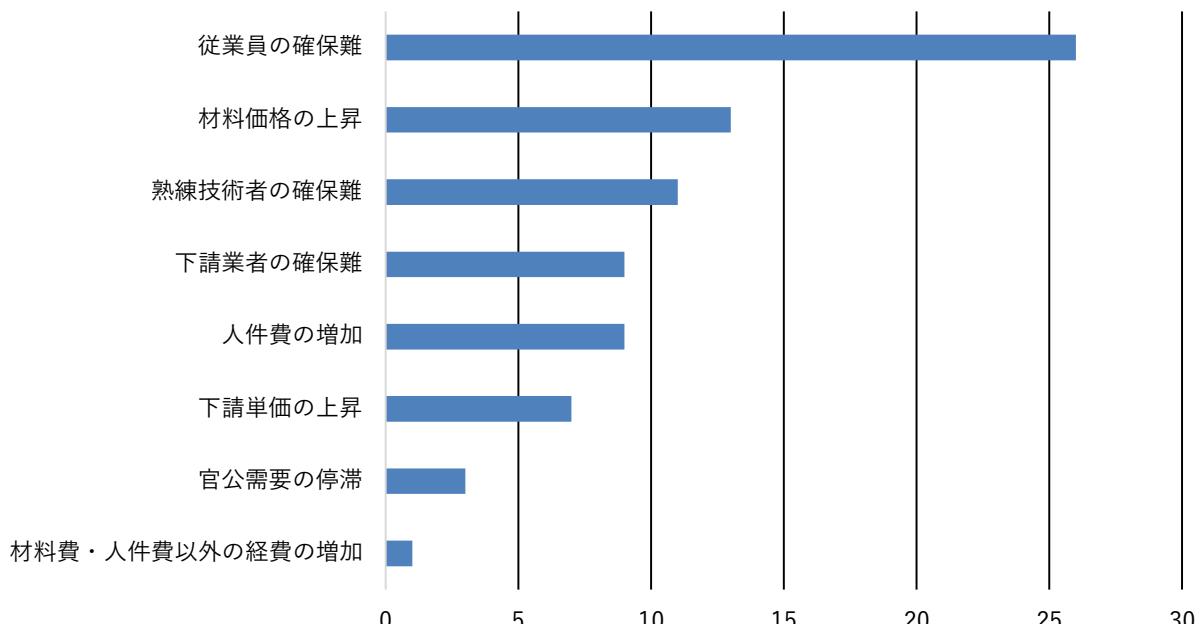
今期の設備投資は66.7%が実施と回答し、前年同期と比べ22.7%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期は33.3%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 仕入価格、売上額が上昇した。(一般土木工事業)
- 人材不足が課題である。(一般土木工事業)
- 請負工事が減少した。(設備工事業)
- 人員確保が困難で、売上額が減少した。(造園業)
- 必要受注額が確保できていない。(一般管工事業)
- 工事量に対して作業員が不足した状況が続いている。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 人材不足は不变と予測する。(一般土木工事業)
- 請負が回復の見込み。(設備工事業)

- 好転すると判断する材料に乏しい。（造園業）
- 時期的に受注不足を挽回することが難しい。（一般管工事業）
- 工事量に対して作業員が不足した状況が続くと予想する。（電気工事業）

市内企業倒産状況

2025年10月～12月
負債1千万円以上、東京商エリサーチ調べ

倒産件数は1件、前年同期比増加
負債総額は1312万円、前年同期比増加

倒産件数

1件

負債総額

1312万円

前年同期比

件数 +1件
(前年同期 0件)

負債 +1312万円
(前年同期 0万円)

■10月
なし

■11月

■12月

食肉販売（負債1,312万円：販売不振による破産）の1件が発生した。

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2025年10月～12月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は36件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は20棟28戸、前年同期比減少

建築確認申請受付件数

36件

新設着工住宅戸数

20棟28戸

前年同期比

件数 -9件
(前年同期 45件)

戸数 -13棟-30戸
(前年同期 33棟58戸)

※変更確認又は変更通知を除く。